

PF-RA504

アナログHD対応
4ch デジタルレコーダ



取扱説明書

JAPAN SECURITY SYSTEM
Safety and trust keep to the future

取扱説明書を読む前に

本取扱説明書では、アナログHD対応 4chデジタルレコーダ PF-RA504の設置および運用のための基本的な説明を記述しています。

本機をはじめてご使用になるユーザーの方はもちろん以前多くの類似装置を使用してきたユーザーの方でも、ご使用の前には必ず本取扱説明書をよく読み注意事項をご確認の上、本機を使用することをお勧めいたします。なお、安全上の警告および注意事項は製品を正しく使うことで危険や財産上の被害を防ぐことにつながるため、必ずお守りください。

お読みになった後は、いつでも確認できる場所に必ず保管してください。

- ☒ 規格品以外の製品を使用することで発生した損傷、または取扱説明書の使用方法を従わずに発生した製品の損傷は、当社で責任を負いかねますので、ご了承ください。
- アナログHDデジタルレコーダを初めてご使用になるか、使い方がよくわからないユーザーは、設置や使用する途中で必ず販売店までお問い合わせいただき、専門のエンジニアのサポートを受けてください。
- 機能拡張および故障修理のために装置を分解する場合は、必ず販売店までお問い合わせいただき専門家のサポートを受けてください。
- 本機は業務用として電磁波適合した装置ですので、販売者または使用者はこの点にご注意ください。もし、誤って販売または購入した場合には、家庭用のものに交換してください。
- 本製品は電気通信事業者（移动通信会社、固定通信会社、インターネットプロバイダ等）の通信回線（公衆無線LANを含む）に直接接続することができません。本製品をインターネットに接続する場合は、必ずルータ等を経由し接続してください。
- 予期せぬ停電による製品の損傷を防ぐため、UPS（Uninterruptible Power Supply、無停電電源供給装置）の設置をお勧めします。詳細はUPS代理店のお問い合わせください。

安全上の注意事項の表示

	注意 感電の危険があるので開けない でください。	
注意:感電の危険があるのでカバーを取り外さないでください。 修理は資格のあるサービス担当者へ依頼してください。		



この事項を守らない場合、死亡したり重症を負う恐れがある内容です。



この事項を守らない場合、軽症を負ったり財産の損害が発生する恐れがある内容です。

記号	規格	タイプ
	IEC60417, No.5032	交流
	IEC60417, No.5031	直流

本文での表記

アイコン	表記	意味
	注意	本機の機能や動作に関する内容で、必ず熟知しておかなければならない内容です。
	参考	本機を使用する上で役立つ内容です。

本文章の内容は予告なく変更する場合があります。

本機には一部のオープンソースを使用したソフトウェアが含まれています。ライセンス政策のソース公開支援可否によって、該当ソフトウェアのソースコードを希望する場合は提供を受けることができます。詳細内容はシステム設定 - 製品情報の画面でご確認願います。本製品はUniversity of California, Berkeleyが開発したソフトウェア及びOpenSSL Projectが開発したOpenSSLツールキット用のソフトウェアを含んでいます。また、この製品はEric Young(eay@cryptsoft.com)が作成したソフトウェアとTim Hudson(tjh@cryptsoft.com)が作成したソフトウェアを含んでいます。

本製品は下記URLに掲載されている特許の1つ以上の請求項の権利範囲に含まれています。
patentlist.accessadvance.com

安全上の注意事項

お使いになる人や他の人への危害、財産への損害を未然に防止するため、必ずお守りいただきたい一般事項を、警告・注意として説明しています。

⚠ 警告

- ・ **工事は販売店に依頼する。**
工事には技術と経験が必要です。火災、感電、けが、器物損壊を防ぐためにも、必ず販売店にご相談ください。
- ・ **異常があるときはすぐに使用をお止めください。**
煙が出る、臭いがあるなどそのまま使用すると火災の原因になります。その場合は直ちに電源プラグを抜いて販売店にご連絡ください。
- ・ **異物を入れない。**
水や金属が内部に入ると火災や感電の原因となります。直ちに電源プラグを抜いて販売店にご連絡ください。
- ・ **不安定な場所に置かない。**
落下などでけがの原因になります。
- ・ **分解しない、改造しない。**
火災や感電の原因になります。修理や点検は販売店にご相談ください。
- ・ **アース(接地)は確実にこなう。**
電源コードには感電を防ぐためのアース線があります。電源プラグをコンセントに差し込む前に、必ずアース線をアースに接続してください。確実にアース接続しないと、感電の原因になります。また、アース線を外す場合は、必ず電源プラグをコンセントから抜いたあとで行なってください。
- ・ **電源コード・プラグを破損するような事はしない。**
傷つけたり、加工・固定したり、束ねたり・ねじったりしないでください。傷んだまま使用すると、感電・ショート・火災の原因となります。コードやプラグの修理の相談は販売店にご相談ください。
- ・ **電源プラグのほこり等は定期的にとる。**
プラグにホコリなどがたまると、湿気などで絶縁不良となり火災の原因となります。電源プラグを抜き、乾いた布などでふいてください。

- ・ **コンセントや配線器具の定格を超える使い方はしない。**
ブレーカが落ちなくても配線などの発熱による火災の原因になります。
- ・ **予想できない停電による製品の破損を防止するため、UPS (Uninterruptible Power Supply, 無停電電源供給装置) のご利用をお勧めします。**
関連内容は、UPS代理店でお問い合わせください。



警告

本製品に付属の「電源コード」は本製品専用のものです。他の製品に使用することはできません。なお、他の製品への転用は保証できません。

⚠ 注意

- ・ **通風孔をふさがない。**
内部に熱がこもり、火災や故障、エラーの原因になります。
- ・ **湿気やほこりの多い場所に設置しない。**
火災や感電、故障の原因になります。
- ・ **振動や強い衝撃を与えない。**
内部部品の変形などで火災や感電、故障の原因になります。

設置について

- **とくにシステム稼動中は、振動や衝撃を与えない。**

デジタルレコーダはハードディスクドライブに録画データを保存しています。ハードディスクはわずか数ミクロンの隙間をディスクが高速で回転しており、システム稼動中に振動や衝撃を与えるとハードディスクが損傷し、デジタルレコーダが起動しなくなったり、録画データが読み出せなくなったりします。

- **内蔵ハードディスク、放熱ファンは消耗品です。**

約30,000時間(この時間は部品の性能を保証するものではありません)を目安に交換されることをお勧めします。交換の際は購入店にご相談ください。

- **電源について。**

使用電源はAC100Vです。設置の際は消費電力の大きな機器(コピー機や空調機など)と同じACコンセントからは電源を取らないでください。また本体は電源スイッチを“切”にしても電源からは遮断されません。必要に応じて本体と電源を遮断できるように、遮断装置ユニットの設置や、電源コードに容易に手が届くようにするなどしてください。

- **雑音源を避ける。**

強い磁界を発生する機器(テレビ、ラジオ、無線機、電動モーターなど)の近くでは、画像の乱れやノイズが発生するおそれがあります。また電灯線や動力線に近づけてケーブルを配線すると、ノイズが入る場合があります。このような時は設置場所やケーブル配線をかえるなどしてください。

- **お手入れについて。**

安全のため、電源を遮断した状態で乾いた布や、薄めた中性洗剤等を染み込ませ固く絞った布で軽く拭いてください(ベンジン・シンナーは塗装がはげたり変形したりします)。お手入れの際、放熱ファンに物がはさまったり指をつめたりしないよう気をつけ、必要に応じて掃除機等もご利用ください。

- **ほこりを避け、熱がこもらないように設置する。**

本体には本体背面と本体右側に強制空冷ファン吹き出し口が設置され、本体の左側に空気取り入れ口が設置されています。設置の際は空気の流れを出来るだけさえないように側面・背面・上面は壁面から5cm以上の間隔をあけるなどして、熱がこもらないようにしてください。また本体内部の空気を循環させているため、床の上や

足元などのほこりのたまりやすいところや、熱がこもるところ、湯気や油の多いところへ設置は出来ません。また空気取り入れ口にゴミやほこりが目立ってきた時は掃除機などで取り除いてください。

- **使用環境について。**

0～40℃でご利用ください。この範囲を越えると故障や誤作動の原因となります。また、温度差の大きいところや湿度の高いところへ移動すると、結露を生じることがあります。結露したまま使用すると故障の原因となりますのでご注意ください。

- **内蔵バックアップ電池について。**

時計や停電時の動作内容の保存などで内蔵バックアップ電池を利用しており、本体が通電していないときにはこの内蔵電池を利用しています。全く通電を行わない場合は、目安3年程で電池を交換されるか、必要に応じて交換されることをお勧めします。

- **その他**

本体の故障、もしくは不都合により録画されなかった場合の補償についてはご容赦ください。

目次

第1章—製品紹介	9
製品の特徴	9
付属品の確認	10
第2章—設置	11
上部パネル	11
後面パネル	12
電源コード接続	12
ファクトリーリセット	12
USBポート接続	12
ネットワークポート接続	12
モニタ接続	13
アラーム接続	13
オーディオ接続	13
ビデオソース接続	13
第3章—システム設定	14
パスワード設定	14
ログイン	14
パスワード探し	14
メニューの使用方法	15
仮想キーボードを利用した文字列入力	15
テーブルで全ての列の値を同時に設定する	15
マウスの使用	15
システム設定	16
一般	16
日付/時刻	20
ユーザー	20
HDD	21
モニタリング	22
製品情報	23
録画設定	23
一般	23
スケジュール	24
プリイベント	26
イベント設定	26
モーション	26
アラーム入力	28

映像信号なし	28
ネットワーク設定	29
一般	29
LAN	29
UCN	31
RTSP	31
装置設定	32
オーディオ	32
アラーム出力	32
ディスプレイ設定	32
OSD	32
メインモニタ	33
SPOTモニタ	33
通知設定	34
コールバック	34
メール	34
スケジュール	35
カメラ設定	35
一般	35
PTZ	36
プライバシーマスキング	37
第4章—運用.....	38
電源を入れる	38
リアルタイム監視	38
リアルタイム監視メニュー	38
ステータス情報ウィンドウ	39
画面グループ編集機能	39
拡大機能	40
PTZ制御	40
イベントモニタリング機能	41
隠しカメラ機能	41
状態監視	41
映像録画	42
緊急録画機能	42
オーディオ録音	42
保存映像の再生	42
映像検索	43
検索メニュー	43
イベントログ検索	44
録画テーブル検索	45
ブックマーク	46
バックアップ	47

第5章ーJSS遠隔監視システム.....	48
システム要件	48
インストール	48
プログラム起動	48
ログイン	48
デバイスの登録	49
リアルタイム監視	50
録画された映像の再生	50
第6章ーJSS遠隔監視-モバイル2	51
Androidのモバイルデバイス	51
iOSのモバイルデバイス	51
第7章ー付録.....	52
USBハードディスクのインストール	52
システムログの種類	53
エラーコードの種類	54
故障の際の確認事項	55
製品の仕様	56

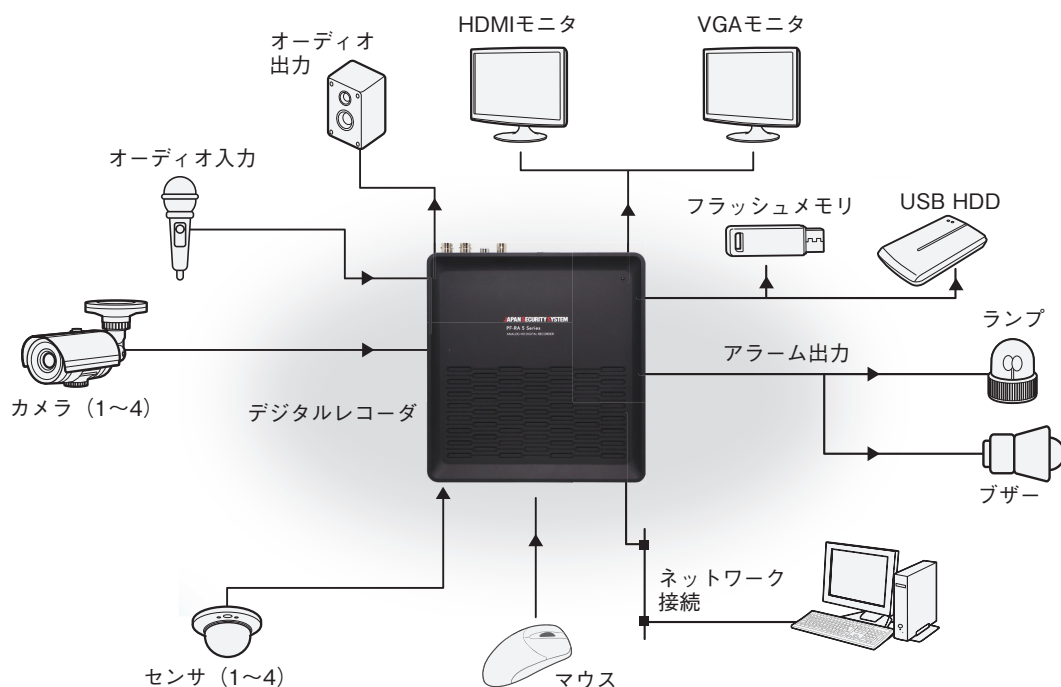
第1章－製品紹介

製品の特徴

本アナログHDデジタルレコーダ(以下、DVRという)は、4チャンネルのカメラ入力を録画できます。また、監視・再生の両モードの画質に優れ、以下のような特徴を備えています。

- ・ チャンネル別ビデオのリアルタイム監視に対応
- ・ 120ips リアルタイム録画 (Full HD解像度基準)
- ・ 1 HDMI, 1 VGA, 1 CVBS OUT 映像同時出力に対応
- ・ 早くて簡単な検索モードを提供 (タイムラプス、イベントログ)
- ・ リアルタイム監視、録画、再生、遠隔転送機能のマルチタスク可能
- ・ ユーザー中心のグラフィックユーザーインターフェース (GUI) と多国語を提供
- ・ さまざまな録画モード (スケジュール、イベント、プリイベント、緊急)
- ・ USB2.0端子×2 (マウス、S/Wアップデートおよび再生映像の保存)
- ・ 自己診断機能、HDD状態などシステムの状況をシステムイベントで知らせる機能。(HDD状態はS.M.A.R.T.プロトコル使用)

ネットワークによって、遠隔地から本DVRをコントロールしたり映像を監視したりできます。USBポートを利用して外付HDDやフラッシュメモリに保存可能です。



付属品の確認

製品の梱包を開けて、下記の付属品がすべて含まれているか確認してください。

項目		
デジタルレコーダ	電源ケーブル／電源アダプタ	マウス
保証書	簡単設定ガイド	

☒	本資料を含め、下記の各種取扱説明書およびソフトウェアは、WEBサイトから入手可能です。 購入先までお問い合わせください。
【取扱説明書】PF-RA504取扱説明書 (pf-ra504_manual_verX.XX.pdf) 【取扱説明書】JSS遠隔監視システム (JSS-RMS_manual_verX.XX.pdf) 【ソフトウェア】JSS遠隔監視システム (JSS-RMS) ※取扱説明書はPDFファイルのため、Adobe Acrobat Readerが必要です。	

第2章－設置

上部パネル



① 電源LED

本体が動作中に点灯します。

後面パネル

DVRの設置に際し、特別な専用工具は必要ありません。全体のシステムを構成する他の装置については、各装置の設置マニュアルを参照してください。

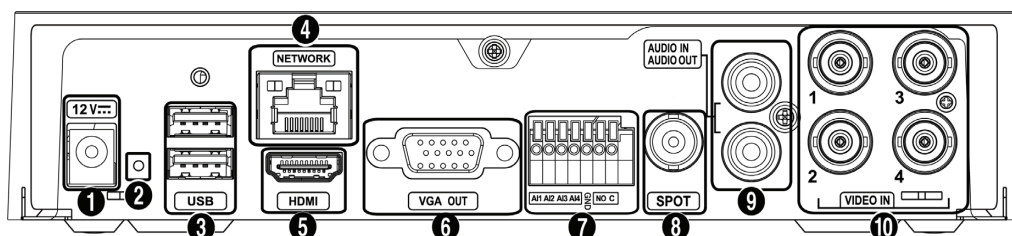


図3:DVR背面パネル

- | | | |
|------------|-----------------|--------------|
| ① 電源入力端子 | ② ファクトリーリセットポート | ③ USBポート |
| ④ ネットワーク端子 | ⑤ HDMI出力端子 | ⑥ VGA出力端子 |
| ⑦ アラーム接続端子 | ⑧ SPOT出力端子 | ⑨ オーディオ接続ポート |
| ⑩ ビデオ入力ポート | | |

電源コード接続



アダプタのコネクタをDVRに接続してからアダプタのAC電源プラグを壁のコンセントに接続します。この装置には電源スイッチがないので、接続するとすぐに電源が入ります。

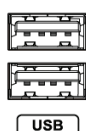
注意：電源コードは配線を足に引っ掛からないようにし、コードが家具のせいで傷ついたりしないようにご注意ください。電源コードをじゅうたんやカーペットの下に設置しないでください。コンセントにアース端子がないからといってプラグを改造したり、一つのコンセントにあまりたくさんの装置をつないで過負荷が生じることのないようにしてください。

ファクトリーリセット

- □
- 装置背面のUSBポートの左側にあるファクトリーリセットスイッチは、DVRを工場出荷時の初期設定に戻す場合にのみ使用します。

注意：工場初期化を行う場合、ユーザーが保存した全てのDVR設定値は消えてしまいます。

USBポート接続



USBポートにUSBの外付HDDやフラッシュメモリを繋いでバックアップすることができます。外付ハードディスクはできるだけDVRの近くに置き、一般的に1.8mより短いケーブルで接続してください。HDDとは別売のUSBケーブルを使用してDVRに接続してください。

USBポートにUSBマウスを接続できます。

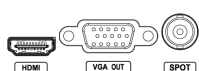
参考：このDVRは、プリンターケーブルを付属していません。プリンターがUSB接続をサポートしていなければ、USBから並列ポートに変換するケーブルを購入してご使用ください。

ネットワークポート接続



このDVRは、10Mbps/100Mbpsイーサネットコネクタを利用してネットワークに接続できます。DVRのネットワークコネクタにRJ-45ジャック付のCat5e ケーブルを接続します。DVRはコンピュータとネットワーク上で接続され、遠隔監視や遠隔検索、遠隔制御や遠隔ソフトウェアアップグレードができます。イーサネット接続の設定についての内容は、この取扱説明書の“第3章－システム設定、ネットワーク設定”部分を参照してください。

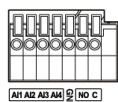
モニタ接続



HDMI (High-Definition Multimedia Interface、高画質マルチメディアインタフェース)、VGA及びSPOTモニタを該当のポートに接続することができます。

参考：システム設定でそのモニタに設定した解像度で映像を表示するためには、DVRの起動前にモニタが接続されていなければなりません。

アラーム接続



参考：アラームコネクタを接続するには、ボタンを押したままラインをボタンの穴に挿入します。しっかりと接続されたかどうかボタンを離してラインを引っ張り、抜けないかどうかを確認します。ラインを抜く場合はラインの上のボタンを押したままラインを引っ張ります。

AI 1 ～ 4 (アラーム入力)：外部装置を利用して、イベントが発生した場合にDVRが反応するように信号を送ることができます。機械的または電氣的スイッチをAI(アラーム入力)とGND(アース)コネクタに接続できます。電氣的スイッチのアラーム入力が見出されるためにはNC(ノーマリークローズド)の場合3.0V以上で、NO(ノーマリーオープン)の場合、0.3V以下の電圧が少なくとも0.5秒以上続かなければなりません。アラーム入力の電圧範囲は0V～5Vです。アラーム入力の設定に関する内容はこの取扱説明書の環境設定を参考してください。

GND (アース)：アラームの入力や出力のアース側をGNDコネクタに接続します。

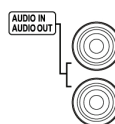
参考：GNDが表示されている全てのコネクタは共通です。

NO (Normally Open)：このDVRは、ブザーやライトのような外部装置をオンオフできます。機械的、または電氣的スイッチをNCとCOMコネクタに繋がられます。電氣的な仕様は125VACで1A、30VDCで1Aシンク電流です。アラーム出力の設定に関する内容は、この取扱説明書の“第3章－システム設定、アラーム出力”部分を参照してください。

コネクタの配置：

AI (1～4)	アラーム入力 1～4
GND	アース
COM	リレーCommon
NO	リレーアラーム出力(Normally Open) (アラームが発生した場合、Common端子と接続)

オーディオ接続

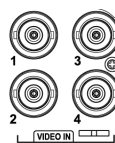


DVRは録音することができます。オーディオソースをオーディオ入力コネクタに接続して、オーディオ出力をアンプに接続します。

参考：設置地域内の法規で録音が許可されているか判断するのは、ユーザーの責任です。

参考：DVRにはオーディオ出力アンプがないため、ユーザーはアンプとスピーカーを準備してください。オーディオ入力には複数のソースを接続できますが、内蔵アンプのないマイクの場合、直接接続すると正常に動作しません。その場合は別途のプリアンプを経ってから接続してください。

ビデオソース接続



ビデオソースからBNC Video Inコネクタ一まで、同軸ケーブルで接続します。

第3章—システム設定

パスワード設定

- 1 システムを初めて稼働する場合、adminユーザーアカウントのパスワード設定が必要です。

- ✓ 工場出荷初期パスワードはありません。
- ✓ 初回ログイン時に運用パスワード登録が必ず必要です。
- パスワードなしでシステムを使用することはできません。
- 左下の「?」ボタンを押すと表示されるパスワード設定に関するガイドラインをお読みください。
- 電子メールアドレスは、パスワード紛失の際に、パスワード再設定の認証番号を発行するのに必要です。メールアドレスを入力して、設定したメールアドレスを忘れないようにしてください。

- ✓ パスワードは、8～16文字で英大文字、英小文字、数字、特殊記号の内、3種類以上の文字の組み合わせが必要です。
(例：jA38v2c4、a1##sb32)
- 次の文字列は使用できません。
 - *IDと同じ文字列
 - *3文字以上の連続した数字が含まれる文字列
(例：123、321)
 - *3文字以上の連続した英字が含まれる文字列
(例：abc、cba、aBC)
 - *3文字以上の文字が繰り返されている文字列
(例：111、aaa、aaa)

ログイン

マウスのポインタを画面の右側に移動させて、リアルタイム監視メニューからログインを選ぶと、次のようなログイン画面が表示されます。

- 1 環境設定、検索等、DVRの様々な機能を使用するには使用権限のあるユーザーでログインしてください。ユーザー選択をし、パスワードを入れたら、そのユーザーとしてログインします。パスワードを忘れた場合、左下の「パスワード探し」ボタンを押すと関連情報が現れます。

パスワード探し

パスワードを忘れた場合、ログイン画面で「パスワード探し」をクリックしてください。

- 1 ユーザーを選択し、E-mailアドレスを入力した後、「認証番号取得」をクリックしてください。

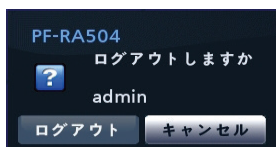
- 2 E-mailで届いた認証番号を入力して「決定」をクリックします。



あらかじめ通知設定—メールの設定で、「SSL/TLSを使用する」をチェックしてSMTPが設定されていないと認証番号の通知はできません。



- ・ リモコンを使用できない場合にはマウスを利用してパスワード項目の右側の  ボタンを選択して仮想キーボードを用いてパスワードを入力します。仮想キーボード使用の内容は“メニュー使用法 - 仮想キーボードを用いた文字入力”部分を参考してください。
- ・ システムからログアウトするには、マウスポインタを画面の右側に移動させて、リアルタイム監視メニューから  (ログアウト) を選びます。



メニューの使用法

リアルタイム監視画面でマウスのポインタを画面の右側に移動させ、リアルタイム監視メニューから  (設定) を選べると、設定メニューに入ります。設定メニューに入るためにはメニュー設定権限のあるユーザーでログインしてください。



①	システム
②	録画
③	イベント
④	ネットワーク
⑤	装置
⑥	ディスプレイ
⑦	通知
⑧	カメラ

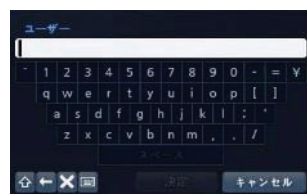
メニューのうち一つの項目を選択しようとする場合は、マウスの左ボタンで該当項目をクリックしてください。各項目の設定変更後に“保存”を選択して、変更した設定を保存して

ください。設定画面左下に  (初期化) アイコンが表示される画面でアイコンを選択すると設定値が初期値に戻ります。



“このページ”を選択すると、現在のページ設定値が、“全てのページ”を選択すると設定画面の全てのページ該当する設定値が初期値に戻ります。

仮想キーボードを利用した文字列入力



矢印を合わせてマウスをクリックすると、文字が入力されます。 ボタンは大文字と小文字を設定し、 はカーソルの前の文字を、 はカーソルの後の文字を消します。 ボタンはキーボードの配列を変更します。

テーブルで全ての列の値を同時に設定する

“第3章 - システム設定 - カメラ設定”の場合のように、メニューが表になった項目の場合、一部は表のタイトル値で変更できます。その場合、タイトル値を変更すると同じ列の全ての項目が同じように変更されます。PTZカメラのIDのように、その値が同じではない場合には、このような方法では変えられないようになっています。

マウスの使用

マウスを使用することで、より直感的に環境設定を行うことができます。スクロールバーのあるメニューでマウスのホイールを上下に回してメニューを手軽に上下させることもできます。また、 08:51:12  のように数字を増減させる場合にも、マウスのホイールを回すと楽に望みの数字に設定できます。

システム設定

一般



“サイト”項目には入力されたシステムインストール場所についての説明が表示されます。マウスをクリックすると、仮想キーボードが表示されます。それを利用して場所についての説明を変更できます。“言語”項目を選択していろいろな言語のうちの一つを選択することもできます。“バージョン”項目にはソフトウェアバージョンが表示されます。ソフトウェアをアップグレードするには、アップグレードパッケージファイルのあるUSB装置をDVRに接続します。“アップグレード…”を選択すると検索画面が表示され、USBメモリを選択できます。アップグレード設定窓が現れます。アップグレードパッケージを選択してから、“実行”ボタンを選択してシステムをアップグレードします。



アップグレードパッケージの中にruiのファイルはシステムアップグレード用です。USBに保存されたプログラムが読み込めない場合には、マウントに失敗したという画面が表示されます。成功した場合には装置が自動的に再起動され、それからアップグレードされたバージョンのソフトウェアが実行されます。

“設定”項目でDVR設定を保存したり読み込んだりできます。保存されている設定ファイルを読み込む場合にはDVRの設定ファイルが保存されているUSB保存装置をDVRに接続し、設定 - 読み込み…”を選択します。



“ファイル名”で設定ファイルを選択してから“読み込み”ボタンを選択します。この時、ネットワーク設定も共に読み込むかを選択できます。“ネットワーク設定含む”を選択しないとDVRのネットワーク設定は変更されません。



“設定 - 保存…”を選択するとUSB保存装置に“ファイル名”項目で入力したファイル名で設定ファイルが保存されます。



設定読みを行ってもシステムの時間関連の設定は変更されません。(日付/時刻/標準時間帯/サマータイム)



システムアップグレード及び設定読み/保存用USBドライブのファイルシステムは、必ずFAT16かFAT32で初期化したものを使用してください。

“システムログ表示…”を選択して、システムログリストの検索ができます。ここに表示されるシステムログのタイプは、“付録 - システムログとエラーコードタイプ”を参照してください。システムログは最近5,000件まで表示されます。もし、遠隔接続で記録されたログの場合、一番右側の欄にPCアイコンが表示されます。



“システムログ”画面で“保存…”を選ぶとUSBに接続された保存装置に“ファイル名”の項目で入力したファイル名でログ情報を保存します。



保存したシステムログ.txtファイルを開く場合、ファイル内容を見るには適切な文字エンコードに設定し固定幅の書体を使います。

“録画データ – 開始”項目には録画されたデータの最初の時間が表示され、“録画データ – 終了”項目には、録画されたデータの最後の時間が表示されます。“全てのデータ削除…”を選択すると確認画面が表示され、もう一度“削除”を選択すると全録画データが削除されます。



“全てのデータ削除…”を選択してもシステムログはそのまま残っており、“全てのデータ削除”というシステムログが追加されます。

“ウィザード”選択すると設定ウィザードを通じてシステムの運用に必要な基本設定ができます。



簡単設定ウィザードかネットワークウィザードの中でご希望の設定ウィザードオプションを選択してから、“次”を選択し、その設定ウィザードを始めます。



ウィザード画面の全体で“キャンセル”を選択すると変更された設定をキャンセルし、メイン設定メニュー画面に戻ります。



“次”を選択して簡単設定ウィザードを始めます。

日付/時刻の設定

“日付”を選択すると、矢印ボタンを利用して日付を変更できます。“時刻”を選択すると、矢印ボタンを利用して時刻を変更できます。“日付 – 形式”と時刻 – 形式”を選択すると、

日付表示方式と時刻表示方式を変更できます。“標準時間帯”を選択すると、その地域の時間帯を選択できます。以下の地図で前面パネルの左/右矢印ボタンを利用するかマウスホイールを上/下に動かしてご希望の標準時間帯を選択することもできます。“サマータイム”を選択すると、サマータイム時間制の使用/解除できます。

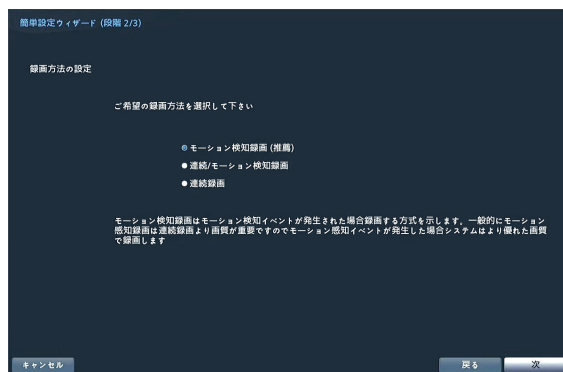


変更された日付/時刻の設定値は“次”を選択した後、システムに適用されます。



録画方法の設定

ご希望の“録画方法”を選択します。



録画画質の設定

ご希望の“録画画質”を選択します。



- 高画質を選択すればするほどハードディスクで大きい空間を占めます。
- 選択した録画方法及び画質によってチャンネル当たりの録画速度、録画解像度及び画質は以下となります。

	高画質優先録画	標準録画	長期優先録画
モーション検知録画	30 ips / 最高画質 / 最高	15 ips / 高画質 / 最高	5 ips / 標準画質 / 高解像度
連続/モーション検知録画	連続、モーション：30 ips / 最高画質 / 最高	連続：15 ips / 高画質 / 最高 モーション：30 ips / 最高画質 / 最高	連続：5 ips / 標準画質 / 高解像度 モーション：15 ips / 高画質 / 最高
連続録画	30 ips / 最高画質 / 最高	15 ips / 高画質 / 最高	5 ips / 標準画質 / 高解像度



“完了”を選択すると簡単設定ウィザードを完了します。
“ネットワーク設定に移動”を選択するとネットワーク設定ウィザードを始めます。



“次”を選択してネットワーク設定ウィザードを始めます。

インターネットに接続

インターネットに接続されているか選択します。



LANの設定

“自動構成”及び“手動構成”の中でご希望のネットワーク構成を選択して“テスト”を選択し、そのネットワーク構成を使用するか確認することができます。

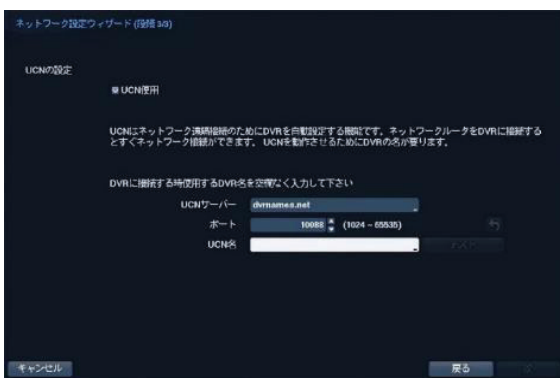


- “自動構成”を選択するとIPアドレス、ゲートウェイ、サブネットマスク、DNSサーバのアドレスなどのLAN設定値を自動に取得します。“手動構成”を選択するとマニュアルでLANのパラメータを設定することができます。
- “テスト”を選択し、そのネットワーク構成が使用可能であるか確認していなかった場合、次の設定に移動できる“次”のボタンを押すことができません。



UCNの設定

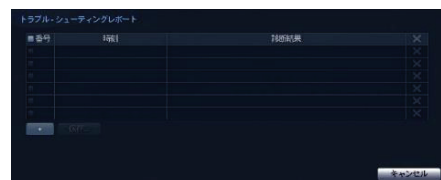
UCNサービスを使用するためには、“UCN使用”を選択してください。



- UCNは、インターネット接続を遠隔から把握し、ネットワークを簡単に接続できるよう、DVRを自動設定させる機能です。ネットワークルータをDVRに接続することで、即座にネットワーク接続ができます。また、UCNを動作させるため、UCN名 (UCNに登録するDVRの名前)が必要です。
- “UCN名”を選択してUCNサーバに登録するUCN名を入力後、“確認”を選択して入力したUCN名が使用できるかを確認できます。
- “確認”を選択して入力したUCN名を確認しなければUCN設定を保存できません。
- 名前を入力しないか、UCNサーバに登録済みの名前を入力すると、エラーメッセージが表示されます。



“完了”を選択して設定ウィザードを完了します。



“トラブルシューティングレポート”部分をマウスをクリックすると、問題のトラブルシューティングのために生成されレポートをエクスポートできます。

“システム終了”を選択すると確認設定画面が表示され、もう一度“システム終了”を選択するとシステムは正常終了します。



日付/時刻



“日付”を選択すると、矢印ボタンを利用して日付を変更できます。“時刻”を選択すると、矢印ボタンを利用して時刻を変更できます。“日付 - 形式”と“時刻 - 形式”を選択すると、日付表示方式と時刻表示方式を変更できます。

“標準時間帯”を選択すると、その地域の時間帯を選択できます。以下の地図で前面パネルの左/右矢印ボタンを利用するかマウスホイールを上/下に動かして希望の標準時間帯を選択することもできます。“サマータイム”を選択すると、サマータイム時間制の使用/解除できます。

“タイムサーバー”を選択すると、タイムサーバーを選んでサーバとの時間の同期化の設定できます。



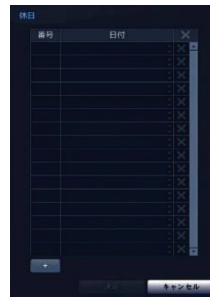
“自動調整”項目を選択してから、“タイムサーバー”のIPアドレスかドメイン名を入力するか  を選択して登録されたタイムサーバーリストよりご希望のタイムサーバーを選択して、“調整間隔”を設定すると、調整間隔毎にタイムサーバーと時間を同期するようになります。“前回調整日時”項目は、最後に同期の行われた時間を表示します。



“ネットワーク - LAN”設定で、DNSサーバを設定するとタイムサーバーのIPアドレスの代わりにドメイン名が使用できます。

“サーバー作動”を選択すると、本装置がSNTPサーバとして動作するようになり、他の装置がこのサーバの時間に同期することが可能になります。

“休日”を選択すると、休日を追加/削除できます。



設定画面下段の“+”を選択して、任意の日付を休日に追加します。設定された日付の右側の **✕** 表示を押して設定された休日を削除します。設定された休日の日には、録画スケジュール設定で設定した休日スケジュールに従って録画が行われるようになります。

ユーザー



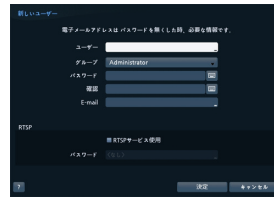
“+グループ…”を選択するとキーボード入力画面が現れ、最高15文字までグループ名を指定できます。グループ名を指定してから該当グループの“権限”を選択します。設定できる権限のタイプとその内容は次の通りです。



- ・システム終了 - ローカルでシステム終了を遂行できる権限で、システムメニューで“システム終了…”を実行できます。
- ・アップグレード - ローカルとJSS遠隔監視システムでシステムアップグレードを遂行できる権限で、システムメニューでシステム情報設定の“アップグレード”を実行できます。
- ・色調整 - ローカルとJSS遠隔監視システムで各カメラの明るさ、コントラスト、彩度、色調値を調整できる権限です（各カメラのボタンをずっと押しているとき色相調節画面が表示されます）。
- ・映像位置調整 - ローカルとJSS遠隔監視システムで映像の位置を左右に調整することができます。
- ・システム検査 - JSS遠隔監視システムでシステム検査の結果

であるシステム状態を見ることのできる権限で、JSS遠隔監視システムで一括作業によってシステム検査を実行できます。

- PTZ制御 - ローカルとJSS遠隔監視システムで各カメラのPTZを制御できる権限で、**PTZ** ボタンを押してPTZカメラを選択してから、PTZ関連ボタンによって制御できます。
- アラームアウト制御 - ローカルとJSS遠隔監視システムでアラーム出力が発生した際にリセットできる権限で、システムの前面パネル、リモコンの各ボタン、あるいはJSS遠隔監視システムのアラーム出力制御ボタンを押してアラーム出力をリセットできます。
- 隠しカメラビュー - ローカルとJSS遠隔監視システムで監視モードや検索モードで隠しカメラに設定されたカメラを見ることのできる権限です。
- 検索 - ローカルとJSS遠隔監視システムで保存された映像を検索できる権限です。
- バックアップ - ローカルとJSS遠隔監視システムでバックアップできる権限です。
- 設定 - ローカルとJSS遠隔監視システムでシステムを設定できる権限で、この権限がない場合は、システム終了とログアウトを除いた全ての環境設定を遂行することができません。
- システム時間の変更 - ローカルとJSS遠隔監視システムでシステムの日付/時間を変更できる権限で、システムメニューで“日付/時間”の設定を実行できます。
- データ削除 - ローカルとJSS遠隔監視システムでシステムの保存データを消すことのできる権限で、システムメニューでシステム情報設定の“全てのデータ削除…”、HDD設定の“削除”と“初期化”を実行できます。
- PTZ設定 - ローカルとJSS遠隔監視システムでPTZの設定ができる権限です。
- アラームアウト設定 - ローカルアラームアウトの設定ができる権限です。
- 隠しカメラ設定 - ローカルとJSS遠隔監視システムで隠しカメラの設定ができる権限です。
- プライバシーマスキング設定 - ローカルとJSS遠隔監視システムで、プライバシーマスキングの設定を行うことができます。
- 録画設定 - ローカルとJSS遠隔監視システムで録画設定部分に属する環境設定を行える権限です。
- 設定読込 - ローカルとJSS遠隔監視システムで以前保存したDVRの設定を読み込みできる権限です。
- 設定保存 - ローカルとJSS遠隔監視システムで現在のDVRの設定を保存できる権限です。



“+ ユーザー …”を選択するとキーボード入力画面が表示され、ユーザー名を指定できます。ユーザー名を入力してからユーザーが属するグループを指定し、パスワードとE-mailを入力します。パスワードは最高16文字まで指定できます。



マウスを用いてパスワード項目の右側の  ボタンを選択して仮想キーボードを用いてパスワードを入力します。仮想キーボード使用の内容は“メニュー使用法—仮想キーボードを用いた文字入力”部分を参照してください。

上で作られたグループとユーザー項目右側の  表示を選択する場合、グループやユーザーを消すことができ、グループ“Administrator”とユーザー“admin”は削除できません。画面上段に“ユーザーとグループ”タイトル右側の  表示を利用して、グループAdministratorとユーザーadminを除いた全てのグループとユーザーを削除できます。システムまたは遠隔ソフトウェアで該当システムに現在ログインされている使用者はログアウトの状態でのみ削除できます。

すでに出来ているグループやユーザーを選択して、その設定値を変更することができます。ユーザーの設定値を変えるためには、パスワードを入力しなければなりません。グループAdministratorの権限オプションは変更できません。ユーザーadminを選択した場合、パスワード以外の他の情報は変更できません。

“自動ログイン”を選択して“キャンセル”とユーザーアカウントのうち一つを選択することができ、システムがブートして選択されたユーザーアカウントで自動的にログインします。“自動ログアウト”を選択して時間を設定すると、システムを設定された時間の間操作しなければ自動的にログアウトします。

HDD



“タイプ”項目には、搭載されたディスクのタイプが表示され、“容量”項目には各ディスクの容量が表示されます。

“初期化”項目には初期化されたディスクの場合“録画”、“使用しない”の中に使用目的に合ったものが表示されます。初期化されていない保存媒体が接続した場合には“初期化されていません”と表示されます。



各ディスクの“初期化”を選択して録画用に初期化ができます。用途を“使用しない”に選択してフォーマットすると該当ディスクは録画に使用されません。



“情報”項目には搭載されたディスクのモデル名及びシリアルナンバーを見せ、ディスクが録画のために使われているかどうかが表示されます。

他のシステムで使用されたディスクを接続した場合“外部”に表示されます。各ディスクの“情報”を選択して保存データの時間情報が確認でき、“削除”を選択して保存データを削除することもできます。

モニタリング



“設定”の項目で各システムイベントの監視周期と監視項目の設定ができます。

- ・システム – 定期的な自己点検を実施し、設定した宛先にメール等で通知することができます。
 - 設定により通知するタイミング、画像ファイルの添付を指定できます。
 - 画像ファイルの添付を指定する場合、“通知設定”-“メール”の画面で添付ファイルでMP4が選択されている必要があります。また、“通知設定”-“スケジュール”で“通知”機能に“メール”が選択されていることも必要です。



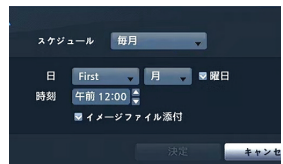
通知をしない
(初期値)



毎日通知
(例:毎日 午前12:00、画像ファイル添付)
※全カメラの画像が添付されます。



毎週通知
(例:毎週月曜日 午前12:00)



毎月指定日・曜日指定
(例:毎月第1月曜日 午前12:00)



毎月指定日・日付指定
(例:毎月1日 午前12:00)

- ・録画を確認 – 正常に録画スケジュールが設定されていても、設定されたスケジュールの日程上の監視周期の間に録画データが無ければ録画エラーに判断します。

“スケジュールオン”を選択してから曜日、時間範囲及び検査間隔を設定します。設定画面左下の“+”を押すと、新しいスケジュール

が追加されます。**✕**を選択すると検査スケジュールを削除することができます。

- ・アラームインを確認 - 監視周期の設定ができ、アラームインが活性化されているのに設定された監視周期中にアラームイン状態に変化が生じない場合、異常と見なします。
- ・ディスクフル警告 - 比率を80～99%まで設定でき、全体のディスク容量のうちその比率に上回る場合、イベントを発生させます。
- ・ディスクエラー - 比率を10～90%まで10%単位で設定でき、全体のディスク容量のうち、その比率に上回って損傷して、それ以上使用できない場合、イベントを発生させます。
- ・ディスク温度 - 上限温度が設定でき、保存スペースのうちどれか一つでも温度がこの温度値と同じになったり高くなったりした場合、ユーザーに知らせるようになっていきます。
- ・“動作”の項目で各システムイベントが発生した際に実行されるアラームアウト(チャンネル、アラーム音)とお知らせ(メール、LAN1～5、アラーム画面)機能が設定できます。



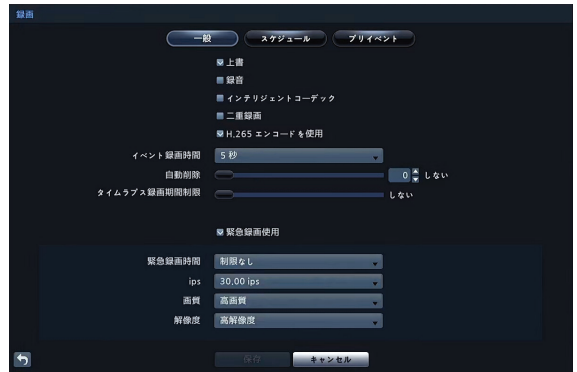
- ・“システム”、“システム開始”、“システム再開”、“システム終了”と“緊急録画”イベントの場合、“アラームアウト”を選択することはできます。
- ・“システム”イベントの場合、“メール”通知だけが選択できます。
- ・“システム”、“システム開始”、“システム再開”と“システム終了”イベントの場合、“アラーム画面”通知を選択できます。
- ・通知(コールバック)機能を使用しようとするDVRがJSS遠隔監視システムに登録する必要があります。

製品情報



録画設定

一般



“上書”を選択した場合、録画ディスクが一杯になると古いデータから消去され、新しいデータが保存されます。“上書”を解除した場合は、録画ディスクが一杯になると録画が中止されます。

“システム設定 - ディスプレー設定”で“残容量”を選択したならば、画面に残容量が表示されます。

“インテリジェントコーデック”を選択した場合は、動きが検出されない場合は、自動的にビットレートを下げます。



フリーイベント録画時には、インテリジェントコーデックを使用してもビットレートが下がりにません。

“二重録画”を選択した場合、画質と解像度の低いスケジュールで追加録画が行われます。追加で録画された映像は、分割画面でリアルタイム再生が可能です。二重録画中は、 アイコンが表示されます。



- ・二重録画動作時録画設定の画質が「最高」の場合、「高」で動作します。
- ・SD入力の場合、二重録画は動作しません。

“H.265エンコードを使用”を選択すると、H.265コーデックを使用して、選択していない場合、H.264コーデックを使用します。

“イベント録画期間”を1秒から30分(初期値5秒)まで設定できます。イベント発生時の動作で連動録画が指定されている場合、そのイベント録画期間で指定した時間だけ連動録画が実行されます。

本DVRは4チャンネルオーディオ録音をサポートします。“録音”を選択するとカメラがレコーディングする場合オーディオも一緒に録音されます。

“自動削除”を設定すると設定した期間が過ぎたら録画データを削除することができます。削除可能な期間は最小1日より最大999日まで設定でき、自動削除機能を使用した

くない場合には“しない”に設定してください。例えば、“自動削除”を選択して期間を“30日”に設定すると現在時刻より30日前以降の時刻録画データのみ保存し、それより古い録画データは自動で削除されます。録画データは毎日零時に自動削除され、設定で“自動削除”設定を変更した時に削除されます。

“タイムラプス録画期間制限”を設定してイベント録画映像をより長期間保存することができます。制限期間は1日より最大99日まで設定することが可能であり、タイムラプス録画期間制限機能を使用しないためには“しない”に設定してください。本機能は録画ディスクの容量が十分大きくて設定した期間より前のデータを保存した場合に作動し、上書きモードで録画ディスクがフルになって古いデータが上書きされるようになると設定した期間より前の“タイムラプス録画映像”データを上書きして新しいデータを保存します。



- ディスクへ保存した映像の期間が設定した“タイムラプス録画期間制限”期間より短い場合は普段と同じく“イベント録画映像”と“タイムラプス録画映像”の中で古いデータを上書きします。“システム”、“システム開始”、“システム再開始”と“システム終了”イベントの場合、“アラーム画面”通知を選択できます。
- 通録画面画質及び解像度、モーションあるいはその他のユーザーの設定内容によってシステムの録画期間が変更されることもあるため場合によっては“タイムラプス録画期間制限”より設定した期間が保証されない場合もあります。

“緊急録画使用”を選択して緊急録画機能を用いるかどうかを設定できます。

“緊急録画期間”を設定して緊急録画を自動的に解除することができます。緊急録画期間は5分～1時間まで設定でき、自動解除機能を使用しない場合は“制限なし”に設定してください。

“ips”、“画質”、“解像度”項目で緊急録画の際の録画速度、画質、解像度を設定できます。“画質”値は、“最高”、“高”、“標準”、“低”に変更ができ、“解像度”値は、“最高”、“高”、“標準”に変更できます。

スケジュール



“スケジュールオン”を解除すると、スケジュールに関係なく録画が中断されます。この状況はユーザーが意図的にスケジュールを解除した状況であることを強調するために、各カメラ画面の左上段に🕒アイコンが表示されます。

録画スケジュールのモードを“単純モード”と“高級モード”のどちらかを選択することができます。“高級モード”を選択すると各イベントについて別々の録画スケジュールを設定することができます。



- 録画スケジュールモードを変更すると変更時動作していたイベント連動アクションを停止します。

設定画面左下の“+”を押すと、新しいスケジュールが追加されます。

録画スケジュールを設定する“曜日”の選択ができます。“範囲”を選択して望みの時間範囲の選択ができます。

“モード”を“録画しない”、“連続録画”、“イベント”または“指定時間 & イベント”に設定することができます。(単純モードに限る)

“モード”を“録画しない”に設定することができ、その場合にはスケジュール上の該当曜日、時間の範囲の中では録画はされません。

“モード”を“連続録画”に設定すると、画面左上段に🕒が

表示され、スケジュールされた時間帯ならば●が画面左上段に表示されて録画が進行します。

“モード”を“イベント”に設定すると、画面左上段に赤い✱が表示され、そのイベントが発生すると●が表示されて録画が進行します。プリイベント設定になっていると、イベントが発生せず録画されていない時は黄色い✱と●が表示されます。イベントが発生してプリイベント録画が行なわれている場合は赤い✱と●が表示されます。

“モード”を“指定時間 & イベント”に設定すると、画面の上に表示され、時間に合った画質で録画され、イベントが発生すると赤い✱に変わり、イベントに合った画質で録画されます。

“チャンネル”を選択してスケジュールを適用するカメラを選択できます。(単純モードに限る)

“設定”を選択すると、“ips”、“画質”、“解像度”を設定できます。別途に設定しなければ下図の“初期値…”で設定した初期値に従うようになります。高級モードでは各イベントに対する連動イベント録画期間を設定することができます。



“タイプ”項目から表示するアイコンの意味は下記の通りです。

	タイムラプス(連続録画)		アラームイン
	モーション		映像信号なし

- スケジュールの高級モード設定メニューから設定していないチャンネルは上位スケジュールの設定値が適用されます。
- 高級モードが設定されている場合、特定チャンネルで複数のイベントが発生して録画する場合、各イベント録画に対する“ips”、“画質”、“解像度”及び“時間”の設定値が異なるとより高い設定値を適用します。ただし、“ips”、“画質”及び“解像度”がすべて最大値に設定されている場合は“ips”はシステムがサポートする最大設定値を適用します。

✕を選択してスケジュールを削除することができます。



高級モードが設定されている場合、解像度の設定時、イベント別の一括設定やイベントの各チャンネル別の個別設定ができます。イベント別の一括設定では“最高”、“高”、“標準”の中で一つを選択します。

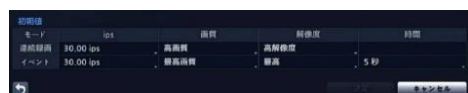
“最高”を選択した場合、各カメラモード(720、960、HD、Full HD、3MP、4MP、5MP)で対応する最高の解像度を、“標準”を選択した場合は最低の解像度を、“高”を選択した場合はその以外の解像度を適用します。イベントの各チャンネル別の個別設定では各カメラのモードで該当モードが対応する解像度を選択することができます。

✔(高解像度) 最高 高解像度 標準 <イベント別の設定>	✔(720X240) 720X480 720X240 360X240 <カメラモード-720>
✔(960X240) 960X480 960X240 480X240 <カメラモード-960>	✔(640X360) 1280X720 640X360 360X240 <カメラモード-HD>
✔(1280X720) 1920X1080 1280X720 640X360 <カメラモード-Full HD>	✔(1280X720) 1920X1536 1280X720 640X360 <カメラモード-3MP>
✔(1280X720) 2560X1440 1280X720 640X360 <カメラモード-4MP>	✔(1920X1080) 2560X1920 1920X1080 640X360 <カメラモード-5MP>



スケジュール上でダブった区間については、下の列のスケジュールが上の列のスケジュールに優先して適用されます。

“初期値…”を選択して連続録画及びイベント録画モードの録画速度、画質、解像度の初期値をそれぞれ設定することができます。各スケジュールに他の設定がない場合“初期値(連続録画及びイベント録画)”に設定されている録画速度、画質、解像度で連続録画及びイベント録画が行われます。高級モードではイベント録画期間を設定することが可能であり、イベント発生の場合は連動録画が設定されていたら指定した時間分連動録画が行われます。



プライベート



もしスケジュール上にイベントモードスケジュールが一つもない場合は、プライベート録画のためにイベントモードスケジュールをリストに追加せよというアラームメッセージが表示されます。



“指定時間 & イベント”モードの場合にもアラームメッセージが表示されます。

“番号”を選択/解除して、プライベートを設定するカメラを選択/解除できます。

録画する“ips”、“画質”、“解像度”を設定できます。

“期間”を設定できます。指定した時間が延びると設定可能な最大ips値が小さくなります。



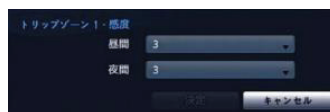
連続録画時間中はプライベート録画が無効であること。

イベント設定

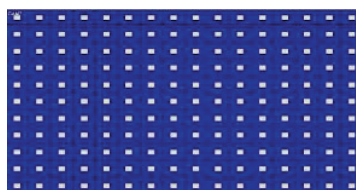
モーション



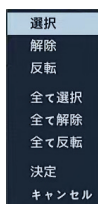
“番号”を選択/解除して、モーション感知機能を設定するカメラを選択/解除できます。



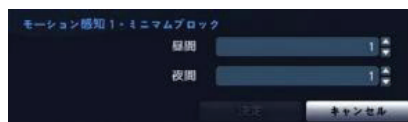
“感度”を選択するとモーション感度の敏感度を設定する画面が表示されます。1(低感度)～5(高感度)の5段階の設定ができ、昼間と夜間を区分して設定することもできます。各カメラ別に“エリア”を選択すると、画面がモーション感知エリア設定画面に変わります。エリア設定はモーション感知が行われるエリアをブロック単位で設定します。



エリア設定画面で矢印ボタンを利用して、ブロック単位のエリア選択画面を上下左右に移動させます。選択画面は16個のブロックサイズの一行に該当します。カメラボタンで各ブロックを選択/解除できます。エリア設定モードで[Enter]ボタンによってエリア設定メニューを呼び出して選択することができます。



エリア設定で、“選択”は一行に該当するブロックを選択し、“解除”は一行に該当するブロックを解除します。“反転”は、一行に該当する選択されたブロックは解除し、解除されたブロックは選択します。“全て選択”は画面全体のブロックを選択し、“全て解除”は画面全体のブロックを解除します。“全て反転”は、画面全体で選択されたブロックは解除し、解除されたブロックは選択します。“決定”は、変更されたブロック設定を保存して、エリア設定を終了します。“キャンセル”を選択すると、変更されたブロック設定を保存せずに、エリア設定を終了します。



“ミニマムブロック”を選択するとモーション感知のミニマムブロックを設定する画面が表示されます。設定したブロックの個数以上のエリアでモーションが発生したらモーション感知イベントが発生します。昼間と夜間を区分して設定するこ

とができます。

“動作”を選択してモーション感知時に行う動作を設定することができます。

録画：モーション感知時に連動録画するカメラを選択することができます。モーション感知が発生した場合、該当するスケジュールが“イベント”や“指定時間 & イベント”モードに設定されていると、設定されたカメラについて連動録画が行われます。

アラーム出力：モーション感知時に実行されるアラーム出力チャンネルとアラーム音on/offを選択できます。

通知：モーション感知時に実行されるアラーム機能でメール、LAN1～5、アラーム画面などを設定できます。

PTZ：モーション感知時にPTZカメラを特定プリセットに移動させることができます。

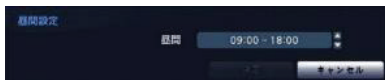


通知(コールバック)機能を使用する場合、DVRをJSS遠隔監視システムに登録する必要があります。

“モーション感知無視間隔”を設定するとモーションが感知された以後、設定した間隔の間に発生するモーションに対してイベントログを残さず遠隔地通報もしません。1秒～10秒または“しない”を選択することができます。



“モーション感知無視間隔”を設定してもモーション感知連動録画は録画設定の通り録画します。



“昼間設定...”を選択すると昼間時間範囲を設定する画面が表示されます。昼間に設定する時間範囲を設定します。時間は15分単位に設定でき、指定した時間範囲の以外は夜間に区分されます。

アラーム入力

番号	タイトル	タイプ	動作
番号1	Alarm In 1	選択	動作1
番号2	Alarm In 2	選択	動作2
番号3	Alarm In 3	選択	動作3
番号4	Alarm In 4	選択	動作4

“番号”を選択/解除して、アラーム入力を選択/解除できます。

“タイトル”を選択してからキーボード入力画面を使用してタイトルを入力できます。

“タイプ”を選択してアラームのタイプを変更することができます。

“動作”を選択してアラーム入力の発生時、実行する動作を設定することができます。

- **録画**: アラーム入力発生時に連動録画するカメラを選択することができます。アラーム入力が発生した場合、該当するスケジュールが“イベント”や“指定時間&イベント”モードに設定されていると、設定されたカメラについて連動録画が行われます。
- **アラーム出力**: アラーム入力発生時に実行されるアラーム出力チャンネルとアラーム音on/offを選択することができます。
- **通知**: アラーム入力発生時に実行されるアラーム機能でメール、LAN1～5、アラーム画面などを設定できます。
- **PTZ**: アラーム入力発生時にPTZカメラを特定プリセットに移動させることができます。



通知(コールバック)機能を使用する場合、DVRをJSS遠隔監視システムに登録する必要があります。

映像信号なし

番号	ビデオロス検知期間	動作
1	0.1 秒	
2	0.1 秒	
3	0.1 秒	
4	0.1 秒	

“ビデオロス検知時間”は映像信号なしが感知された後、状態が持続して映像信号なしのイベントを発生させる基準時間です。従って、映像信号なしが感知されても、設定した期間以内に再び映像信号が元通りになった場合、映像信号なしのイベントとみなしません。

“動作”を選択して映像信号なしが発生時に実行する動作を設定することができます。

- **録画**: 映像信号なしが発生時に連動録画するカメラを選択することができます。映像信号なしが発生した場合、該当するスケジュールが“イベント”や“指定時間&イベント”モードに設定されていると、設定されたカメラについて連動録画が行われます。
- **アラーム出力**: 映像信号なしが発生時に実行されるアラーム出力チャンネルとアラーム音on/offを選択することができます。
- **通知**: 映像信号なしが発生時に実行されるアラーム機能でメール、LAN1～5、アラーム画面などを設定できます。
- **PTZ**: 映像信号なしが発生時にPTZカメラを特定プリセットに移動させることができます。



通知(コールバック)機能を使用する場合、DVRをJSS遠隔監視システムに登録する必要があります。

“無視時間使用”を選ぶと、設定した時間の間、映像信号なし感知機能が作動しません。“時間設定...”を選択して映像信号検知無視間隔を設定します。

ネットワーク設定

一般



“マルチストリーム”項目を選択すればひとつ以上のストリームに対応します。JSS遠隔監視システムなどの遠隔プログラムから画面分割モードまたはチャンネルに応じて互いに異なるストリームを使用するように設定することができます。

“ips”を設定すると、設定した速度以下でのみ映像がネットワークに伝送されます。“画質”を設定すると、設定した画質で映像がネットワークに伝送されます。“解像度”を設定すると、設定した解像度で映像がネットワークに伝送されます。伝送速度の単位はbpsまたはipsのどちらかを選択することができます。

✓ 再生中、ネットワーク伝送速度が低下する場合があります。

“遠隔監視-bps/ips”を設定すると、設定した速度以下でのみ映像がネットワークに伝送されます。伝送速度の単位はbpsまたはipsのどちらかを選択することができます。“遠隔監視-画質”を設定すると、設定した画質で映像がネットワークに伝送されます。“遠隔監視-解像度”を設定すると、設定した解像度で映像がネットワークに伝送されます。

✓ 映像伝送速度は最高速度です。ネットワーク環境により設定した速度以下の映像が伝送されることがあります。

“ネットワークバンド幅制限”の項目で、制限したい帯域幅を設定します。

✓ ネットワーク帯域幅を制限する場合、遠隔プログラムの監視映像が不自然な映像になる恐れがあります。

“遠隔オーディオチャンネル”を設定すると、遠隔オーディオ

オ動作時、選択したチャンネルのオーディオがJSS遠隔監視システムで伝送されます。“遠隔ソフトより選択”を選ぶとJSS遠隔監視システムから選択されたチャンネルのオーディオが伝送されます。

✓ オーディオ伝送時、ネットワーク環境によって音声の途切れやオーディオ同期のズレが生じることもあります。

“データ伝送をするためのSSLを適用”を選択すると遠隔プログラムを用いて映像を監視したり録画したりする時、遠隔監視または遠隔録画のために伝送されるデータ(映像及び音声除外)にSSL(Secure Sockets Layer)認証を利用したセキュリティ機能が適用されます。ただし、SSL機能を使用する場合SSL機能の支援が出来ない遠隔プログラムは本DVRに接続できません。

- ✓ SSL設定を変更すると、それを反映するためにDVRの遠隔接続がしばらく切断されます。
- この製品はOpenSSLツールキットを利用するために、OpenSSLプロジェクトによって開発されたソフトウェアを含んでいます(<http://www.openssl.org/>)。

LAN

“タイプ”の横のボックスを選択して手動、DHCPを選択することができます。



“タイプ”で“DHCP”を選択した場合、DHCPでネットワークに接続されているDVRのネットワークの設定ができます。“保存”を選択するとDHCPサーバからIPアドレスなどのネットワーク情報を自動で受け入れます。ネットワーク情報を受け入れるとIPアドレスの項目にDVRの現在IPアドレスが表示されます。“自動”(デフォルト値)を選択するとDNSサーバのIPアドレスを自動に取得します。



- “自動”項目の選択はDVRがDHCPネットワークである場合のみ有効です。
- DVRの設定がDHCPの場合、DVRのIPアドレスは接続する度に変わる可能性があります。



ポート値を変更する場合、JSS遠隔監視システムの遠隔地点IPポート設定も同じ値に変更してください。詳しい事項は、JSS遠隔監視システム取扱説明書を参照してください。



ポートを変更すると、それを反映するためにシステムが再起動されます。

“手動”を選択するとマニュアルでLANのパラメータを設定することが出来ます。“IPアドレス”、“ゲートウェイ”、“サブネットマスク”の各項目を選択してから上下矢印ボタンで増加できます。

工場出荷時のLAN設定：

- IPアドレス：192.168.1.129
- ゲートウェイ：192.168.1.254
- サブネットマスク：255.255.255.0

“DNSサーバ”を選択してDNSサーバのIPアドレスを入力します。

“ポート番号設定…”を選択すると遠隔管理/遠隔コールバック/遠隔監視/遠隔検索/遠隔オーディオプログラムの各ポート番号を8000より12000までの番号で選択でき、DVRのポート番号を変更した時PCの遠隔ソフトも同様に変更する必要があります。

工場出荷時のIPポート設定：

- 遠隔管理：8200
- 遠隔コールバック：8201
- 遠隔監視：8016
- 遠隔検索：10019



- ポートの変更は、ファイアウォールなどを使用する場合、ファイアウォールで許可されるポート番号に変更する際に使用します。
- 各プログラムのポート値は互いに異ならなければならず、ポート値が同じ場合はJSS遠隔監視システム及びWEB Clientにアクセスできません。

UPnP (Universal Plug and Play、ユニバーサルプラグアンドプレイ) サービスを使用するには“UPnP使用”を選択してください。UPnPサービスを通じてIPルータ(またはNAT)使用時そのデバイスでDVRへのポートフォワーディングを自動に行えて、この機能は私設IPアドレスで構成されたポートに接続する際、活用されます。



- UPnPサービスを使用する為には使用するIPルータ(またはNAT)がUPnPポートフォワーディング機能を支援しなければいけませんし、その機能が使用できるように活性化されていなければいけません。
- “UPnP使用”を選択するとポート番号は変更できません。

“状態”を選択するとUPnPサービスを通じてIPルータ(またはNAT)でDVRにポートフォワーディングされた番号が表示されます。

“テスト”を選択すると、現在設定された値で、LANの接続状態がテストできます。

“タイプ”で“DHCP”を選択した場合、DHCPでネットワークに接続されているDVRのネットワークの設定ができます。“保存”を選択するとDHCPサーバーからIPアドレスなどのネットワーク情報を自動で受け入れます。ネットワーク情報を受け入れるとIPアドレスの項目にDVRの現在IPアドレスが表示されます。

“自動”(デフォルト値)を選択するとDNSサーバーのIPアドレスを自動に取得します。



- “自動”項目の選択はDVRがDHCPネットワークである場合のみ可能です。
- DVRの設定がDHCPネットワークの場合、DVRのIPアドレスは接続する度に変わるかもしれません。

UCN

UCNサービスを使用するためには、“UCN使用”を選択してください。

- ✓ UCNは、インターネット接続を遠隔から把握し、ネットワークを簡単に接続できるよう、DVRを自動設定させる機能です。ネットワークルータをDVRに接続することで、即座にネットワークができます。また、UCNを動作させるため、UCN名(UCNに登録するDVRの名前)が必要です。“UCNサーバ”を選択してUCNサーバのIPアドレスかドメイン名を入力します。
- “LAN”設定で、DNSサーバを設定するとUCNサーバのIPアドレスの代わりにドメイン名が使用できます。

ポートの横のボックスを選択してUCNサーバのポート番号を入力してください。ポート番号は10000～12000が設定できます。

“UCN名”を選択してUCNサーバに登録するDVRのUCN名を入力します。入力後“確認”を選択して入力したUCN名が使用できるかどうかを確認できます。

- ✓ “確認”を選択して入力したUCN名を確認しなければUCN設定を保存できません。
- 名前を入力しないか、UCNサーバに登録済みの名前を入力すると、エラーメッセージが表示されます。

“動作状態”項目はランデブーサーバとの接続状態を見えます。

- ✓ ユーザーのネットワーク環境により、UCNサービスが動作せず、ネットワーク接続ができないこともあります。この場合、ポートをマニュアルで設定する必要があります。ポート設定に関する詳しい内容は“LAN”の設定をご参照ください。

RTSP

RTSP (Real-Time Streaming Protocol、リアルタイムストリーミングプロトコル) サービスの使用には“RTSP使用”を選択してください。

“RTSPポート”を選択してRTSPサーバのポート番号を選択することができます。

“RTPポート”を選択してRTSPスタートポート及び最後ポート番号を選択することができます。

“モバイル使用”を選択するとBlackBerryのようなモバイルデバイスを用いて遠隔地でDVRに接続できます。

- ✓ “モバイル使用”を選択する場合、ネットワーク - WEB Client 2の設定と関係なくWEB Client 2は常に使用するように自動設定されます。
- RTSPサービスを支援するメディアプレーヤーを通じて遠隔地でDVRに接続してリアルタイムの映像を監視することができます。接続方法は以下のようです。
 - PCを通じた接続：メディアプレーヤー(VLCプレーヤーなど)を実行してからrtsp://ID:パスワード@IPアドレス：
 - RTSPポート番号/trackID=チャンネル番号&ストリームID=ストリーム 番号”入力
 - モバイルデバイス(BlackBerryなど)を通じた接続：ブラウザを実行してからhttp://IPアドレス: WEB Client 2ポート番号/”入力
- Black berryまたはAndroidデバイスを用いてDVRに接続する場合、ルータを使っているFirewallが設定されていればUDPポートを全てオープンしなければなりません。
- 一部のメディアプレーヤーではネットワークの状態によって綺麗な映像の再生ができない場合もあります。
- RTSPサービスはお使いになっているメディアプレーヤーの種類によって支援されない場合もあります。

装置設定

オーディオ



“連動カメラ”を設定して“オーディオ出力”を選択すると、カメラが録画される際に該当チャンネルオーディオも一緒に録音されます。“オーディオ”を選択すると当該チャンネルの全画面を再生する場合、オーディオを再生します。再生時には該当チャンネルの全画面モードでのみオーディオが再生されます。

アラーム出力



“期間”は5秒から30分まで設定できます。アラーム出力はここで設定された時間の間作動します。

“タイトル”を選択して、アラーム出力カタイトルを設定できます。



リレー反転ボックスをチェックした場合、DVRの背面パネルに接続されるアラーム出力タイプを反転させることができます (NO▶NC)。

スケジュールのリストの左下にある“+”を選択してスケジュールを追加できます。“曜日”別に選択することができ、“範囲”を選択してスケジュールする時間帯を変更できます。

“モード”では“イベント”、“On”、“Off”を選択できます。指定されたスケジュールに従って“イベント”モードならばイベントに連動してアラーム出力が発生するし、“On”モードならばアラーム出力が無条件でOnになり、“Off”モードならば無条件でOffになります。

“チャンネル”を選択してアラーム出力するポートとアラーム音のon/offを指定できます。

✕ボタンを選択してスケジュールを消すことができます。

ディスプレイ設定

OSD



“OSD”画面で次のような情報を画面に表示するように設定できます。

・監視画面下段の各種状態を表示する項目

- 拡大 - 画面が拡大状態の場合は アイコンが表示されます。
- ネットワーク - ネットワークが接続されると アイコンが表示されます。ネットワークを通じて双方向オーディオを使用している時は アイコンが、VNCサービスが動作中である場合は アイコンが表示されます。
- フリーズ & 自動切替 - 一時停止状態の際に アイコンを、連続モードの際に アイコンが表示されます。
- 画面グループ - 何番目の画面であるかが表示されます。
- 残容量 - 上書が選択された場合は アイコンが、上書きではない場合は残りの容量が%単位で表示されます。
- 日付、時間 - 日付と時間が表示されます。
- ユーザー名 - 画面右下にログインしたIDが表示されます。
- バックグラウンドパネル - OSD情報が表示される画面の下段のバックグラウンドパネルを黒く表示します。

・監視画面の各カメラ画面にカメラに関する情報を表示する項目

- 番号 - カメラ番号がカメラ画面左上段に表示されます。
- タイトル - カメラ名がカメラ画面左上段に表示されます。
- 録画 - 録画とスケジュールに関連したアイコンが表示されます。
- オーディオ - 該当チャンネルのオーディオが出力中の場合は  アイコンが表示されます。
- PTZ - カメラがPTZカメラに設定されている場合、**P**アイコンが表示されます。



“透明度”を選択して変更すると、メニューの透明度がそれに合わせて変更されます。“OSD余白…”を選択して垂直、水平余白を設定できます。使用するモニタに合わせて適当なOSD位置を選択してください。

メインモニタ



メインモニタの“モード”を“フル切替”または“切替”に変更でき、“カメラ切替間隔”を設定できます。切替監視につきましては“第4章 - 運用 - リアルタイム監視 - 切替監視”部分を参照してください。

“カメラ切替時間”を選択すると1秒～1分まで設定できます。切替監視につきましては“第4章 - 運用 - リアルタイム監視 - 切替監視”部分を参考してください。

“イベントモニタリング”を選択するとイベントモニタリング機能を使用することができます。この機能につきましては“第4章 - 運用 - リアルタイム監視 - イベントモニタリング機能”部分を参照してください。

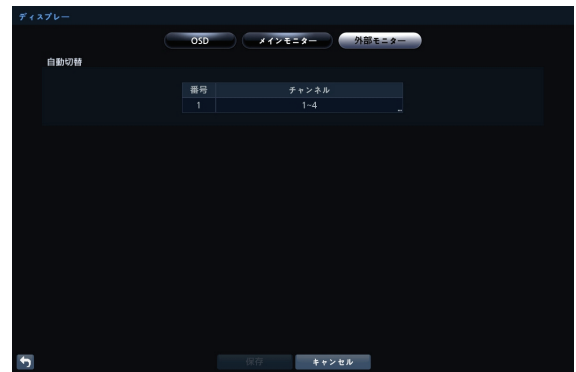
メインモニタの画面の“解像度”を選択できます。

“解像度マニュアルモード”に合わせる”を選択して、モニタの解像度情報に関わらず、ユーザーが解像度を手動で設定できます。

“画面に合わせる”を選択して、映像をプライマリモニタ画面にピッタリ合うように調節できます。

“モニタ解像度”は現在DVRに繋がっているモニタの解像度情報を見せます。

SPOTモニタ



“チャンネル”を選択してSPOTモニタ切替監視に使用するカメラを選択/解除でき、選択したカメラの監視時間が設定できます。



- ・ ネットワークカメラおよびビデオエンコーダーの場合、SPOTモニタでの映像監視および再生機能は支援しません。



通知設定

コールバック



“番号”を選択すると、コールバックを受け取るサーバのIPアドレスを設定できます。DVRが遠隔アクセスに失敗した場合、再アクセスを試みる際に“リトライ”の回数は1回から10回まで選択できます。

メール



メール機能とは、各種イベントの動作の通知の中に“メール”が含まれた場合、該当イベントが発生すると指定されたアドレスにメールを送る機能です。

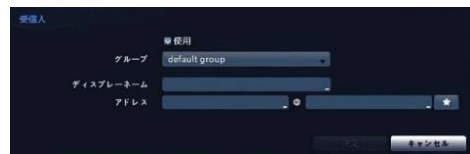
“グループ & 受信人”左のボックスを選択/解除して、該当メールのアドレスを選択/解除することができます。

画面の左下にある“+ グループ”を選択してメールの受信人グループを追加し、メールに添付するイメージのファイル設定ができます。



“グループ”を選択すると、キーボードの入力窓が、表しグループ名を指定できます。“添付ファイル”で、“CBF”を選択する場合、ビデオクリップ形の、“MP4”を選択する場合MP4ファイル形のイベント映像が、該当のグループでメール発送の時、添付されます。

画面の左下にある“+ メール”を選択してメールのアカウントを追加することができます。



“使用”を選択し、追加したメールアドレスの使用可否を選択した後、宛先が属する受信人“グループ”を選択します。“ディスプレイネーム”を選択し宛先の表視ネームを指定した後“アドレス”項目の 受ける側のメールアドレスおよびメールサーバを設定します。★を選択すると、メールサーバリストから、希望するメールサーバが選択できます。

“添付ファイル”を選択し、メールに添付するイメージファイルの形を変更できます。



イベント映像の添付機能はテキストインのイベントに対しては除外されます。

設定されたメールのアカウントの右側の✕のアイコンを押して設定されたアカウントを削除します。

“SMTP設定”を選択するとSMTPサーバが設定できます。



“SMTPサーバー”のIPアドレスかドメイン名、SMTPサーバの“ポート番号”、“発信人”を設定してください。SMTPサーバのポート番号初期値は“25”です。



“LAN”設定で、DNSサーバを設定するとSMTPサーバのIPアドレスの代わりにドメイン名が使用できます。



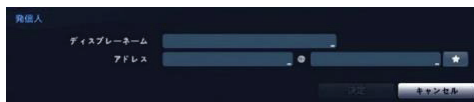
“SSL/TLS使用”を選択するとSSL接続を要求するSMTPサーバを使用することができます。

SMTPサーバに使用者認証が必要な場合“使用”を選択して使用者認証を使用するかどうかを判断してから“ユーザー”と“パスワード”を設定します。



この製品はOpenSSLツールキットを利用するために、OpenSSLプロジェクトによって開発されたソフトウェアを含んでいます (<http://www.openssl.org/>)。

“発信人”を選択して発信人のメールアドレスを設定します。



“ディスプレイネーム”を選択し、発信人の表記ネームを指定した後、“アドレス”項目で、発送人のメールアドレス及び、メールサーバを設定します。☒を選択すると、登録されたメールサーバリストから、希望するメールサーバの選択ができます。

“テスト”を選択すると、現在設定された値でメールが転送されるかテストすることができます。

スケジュール



画面の左下にある“+”を選択し、通知スケジュールを追加できます。“曜日”別に選択でき、“範囲”を選択してスケジュールする時間帯を変更します。“通知”を選択してイベント検知時、実行されるアラーム機能で“メール”、“LAN1～5”、“サマリー”などを選択できます。

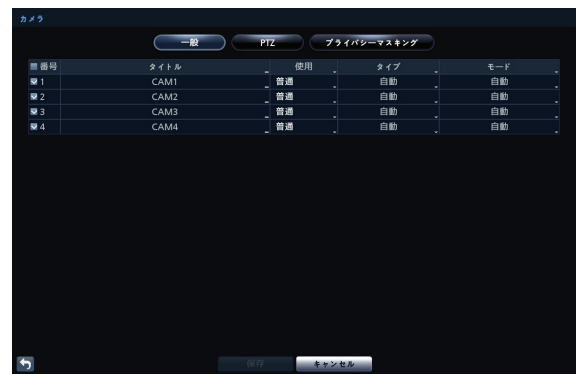


- 通知（コールバック）機能を使用しようとするDVRをJSS遠隔監視システムに登録する必要があります。
- 通知“スケジュール”は、システム - システムイベント設定で、設定した、アラーム動作には影響がありません。

“サマリーEmail間隔”を設定すると決めた間隔でイベントの内容を要約したメールを遠隔地に伝送します。

カメラ設定

一般



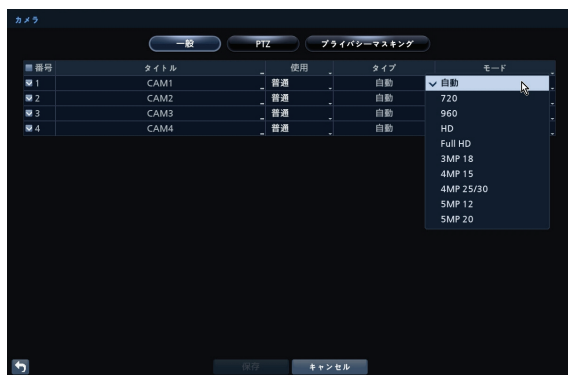
“番号”を選択/解除して、カメラをOn/Offさせられます。各カメラ番号の横のチェックボックスが選択されていればカメラがOn、空いていればOff状態です。選択されたカメラだけが監視画面に表示され、録画と再生ができます。

“タイトル”を選択すると、カメラのタイトルを決めることができます。

“使用”を選択すると、“普通”、“隠し1”、“隠し2”のうちの一つに変更できます。“隠し1”が“隠し2”に設定した場合、“隠しカメラビュー”の権限がないユーザーがログインすると、該当カメラの映像が監視画面に表示されず、再生時にも該当カメラの映像が再生されません。“隠し1”と“隠し2”の違いは、

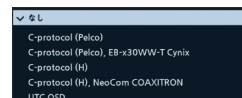
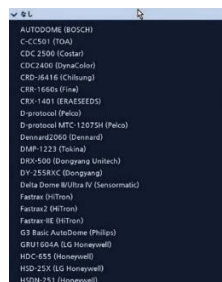
“隠し1”に設定した場合映像は表示されませんが、各種OSDは表示され、“隠し2”に設定した場合はカメラが接続されていないように、映像だけでなく各種OSDも表示されません。

“タイプ”を選択すると、カメラが対応するタイプの値を自動、SD、HD-TVI、AHD の中で一つを選択することもできます。



“モード”を選択すると、カメラが対応する横解像度の値を720、960、HD、Full HD、3MP、4MP、5MPまたは自動の中で一つを選択することもできます。自動を選択すると、カメラが対応する横解像度の値をDVRが自動で感知します。

PTZ



“モデル”を選択すると、PTZカメラのタイプを選択しIDを選択すると、該当カメラをPTZモードで操作することができます。

“モード”を選択すると、なしあるいはUTCを選択することもできます。

UTC(=CoC/Control over Coax)は、対応しているアナログHDカメラだけ使用できます。

「UTCのモデル選択方法」

- ACP：遠隔から、PF-CA4040、CA4031、CA4041、CA4032のZOOM/FOCUS操作、カメラメニュー操作をする場合
- JSS-D：その他の当社アナログHDカメラのPTZ等を操作する場合



当社カメラ以外の場合、CoC機能が正常に動作しないことがあります。

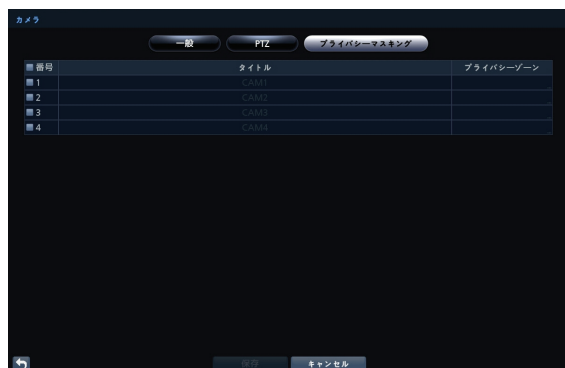
保存する際に“最大プリセット”を選択するとカメラが対応するプリセットの数を設定することができます。



カメラが対応する最大プリセットの数を確認してください。設定されている最大プリセットの数が、カメラが対応するプリセットの数を超える場合、超過したプリセットに移動時カメラが誤作動することがあります。

保存する際にID値が別のPTZのID値と重複するならば、アラームメッセージが表示されます。ID値が重複しないようにもう一度設定し直してください。

プライバシーマスキング



“プライバシーマスキング”を選択するとライブや録画画面に適用するプライバシーマスキングを設定することができます(最大4つ)。

“番号”を選択すると、カメラ番号を表示したり、非表示にしたりすることができます。

“プライバシーゾーン”をクリックすると、当該チャンネルのライブ画面が全画面表示され、マウスでドラッグすることでプライバシーゾーンを設定することができます。

削除

全て削除

保存

キャンセル

“削除”は選択されたプライバシーマスキングエリアを削除します。“全て削除”は全てのプライバシーマスキングエリアを削除します。“保存”を選択すると変更事項を保存し、プライバシーマスキングエリア設定ウィンドウを終了します。“キャンセル”を選択すると、変更事項を保存せずにプライバシーマスキングエリア設定ウィンドウを終了します。

第4章－運用

DVRの動作はビデオを録画して再生することが主要機能です。しかし、ビデオを録画して再生することの他に、もっといろいろな機能を提供します。時間別、曜日別に録画スケジュールを設定することができ、多様な方法で録画されたデータを検索できます。また、遠隔制御、遠隔監視、録画された映像を再生しながら同時に現在の映像を録画するなどのような付加的な機能を提供します。マウスの使用方法などについては、“第3章－システム設定－メニューの使用方法”に説明されています。

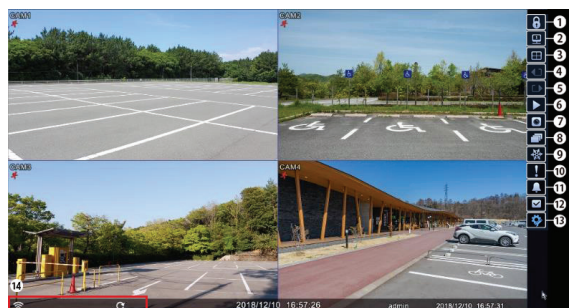
電源を入れる

“第2章－設置”の説明の通りDVRを設置すれば、記録する準備は完了です。装置に電源をつなげばシステムがブートします。

リアルタイム監視

DVRが初期化過程を完了すると、直ちに接続されているモニタとスピーカによって監視画面が表示され、オーディオが聞こえます。工場出荷時の基本モードは、全てのカメラを一画面に表示するようになっています。カメラ画像をマウスで選択すると、該当カメラの映像を全画面に表示します。

リアルタイム監視メニューは、マウスのポインターを画面の右側に置くと表示できます。



① ログイン/ログアウト	⑧ 自動切替
② モニタ	⑨ フリーズ
③ ディスプレー	⑩ 緊急録画
④ 前画面グループ	⑪ アラーム
⑤ 次画面グループ	⑫ 状態
⑥ 検索	⑬ 設定
⑦ カメラメニュー	⑭ ステータス情報ウィンドウ



リアルタイム監視メニューはマウスポインタを画面の右側に置いて表示させることもできます。

リアルタイム監視メニュー

① ログイン/ログアウト

リアルタイム監視メニューで①(ログイン)又は②(ログアウト)を選択時、ログイン又はログアウト窓を呼びます。

② モニタ

③(モニタ)を選択するたびに、プライマリモニタ(④)、スポット(外部)モニタ(⑤)を選択します。選択したモニタの画面分割と切替監視を設定することができます。

③ ディスプレー

・**全画面**：リアルタイム監視メニューで⑥(ディスプレイ)→⑦(全画面)を選択してからご希望のカメラチャンネルを選択するとリモコンの該当カメラ番号ボタンを押す時やマウスで特定のカメラ画面をクリックする時と同じく、該当するカメラ画面が全画面に切り替わります。全画面のどこかをもう一度クリックすると、全画面になる直前の分割画面に切り替わります。

・**2×2**：リアルタイム監視メニューで⑥(ディスプレイ)を選択すると2×2画面に切り替わります。

・**カメラのOSD、状態のOSD**：リアルタイム監視メニューで⑥(ディスプレイ)→“カメラのOSD”を選択するとカメラ関連OSD(画面上に文字表示)機能を、“状態のOSD”を選択するとシステム状態関連OSD機能を活性化、または非活性化させます。

④ 前画面グループ、⑤ 次画面グループ

リアルタイム監視メニューで⑧(前画面グループ)、⑨(次画面グループ)を選択すると、現在の画面の前/次の画面グループに移動し、ページ番号が画面に表示されます。

⑥ 検索

・**全てのカメラ**：リアルタイム監視メニューで⑩(検索)を選択すると検索モードに入ります。

⑦ カメラメニュー

・**PTZ**：リアルタイム監視メニューで⑪(カメラメニュー)→“PTZ”を選択するとPTZコントロール機能を実行することができます。詳しい内容は下記の“PTZ制御”部分を参照してください。

- ・**拡大**：リアルタイム監視メニューで  (カメラメニュー) → “拡大” を選択すると映像を拡大することができます。詳しい内容は下記の“拡大機能”部分を参照してください。
- ・**オーディオ**：リアルタイム監視メニューで  (カメラメニュー) → “オーディオ” を選択するとオーディオ出力を On/Off にできます。
- ・**色調整**：リアルタイム監視メニューで  (カメラメニュー) → “色調整” を選択してからご希望のカメラチャンネルを選択すると色調整画面が表示されます。ここでは各カメラの明るさ、コントラスト、色の濃さ、色あいを調整することができます。



ここで変更した色調整のとりの映像が監視されるだけでなく録画されます。

- ・**映像位置調整**：映像の位置を左右に微調整することができます。
- ・**メニューコントロール**：リアルタイム監視メニューで  (カメラメニュー) → “メニューコントロール” を選択してからご希望のカメラチャンネルを選択すると該当カメラが対応するメニューコントロール画面が表示されます。本機能は該当カメラがCoC機能に対応する場合のみ動作します。
- ・**グループ編集**：リアルタイム監視メニューで  (カメラメニュー) → “グループ編集” で画面のグループ編集モードがスタートします。詳しい内容は下記の“画面グループ編集機能”部分を参照してください。
- ・**情報**：リアルタイム監視メニューで  (カメラメニュー) → “情報” を選択すると、現在接続されているカメラ情報と記録状態を表示します。



カメラメニューは各カメラの画面でマウスを右クリックして呼び出すこともできます。

- ・**設定**：設定メニューに入ります。

8 自動切替

リアルタイム監視メニューで  (自動切替) を選択すると自動切替がスタートします。自動切替をストップさせたい場合は、もう一度  を選択してください。システム設定－ディスプレイ設定で“自動切替”を選択し活性化していると、画面左下に  が表示されます。

9 フリーズ

リアルタイム監視メニューで  (フリーズ) を選択すると、画面が停止されます。システム設定－ディスプレイ設定で“フリーズ”を選択し活性化していると、画面左下に  が表示されます。画面停止状態から、また  を選択すれば画

面停止状態が解除されます。

10 緊急録画

リアルタイム監視メニューで  (緊急録画) を選択時、緊急録画機能を使用/解除します。

11 アラーム

リアルタイム監視メニューでアラーム作動中に  (アラーム) を選択すると内部ブザーを含むDVRの出力をリセットします。

12 状態

リアルタイム監視メニューで  (状態) を選択するとシステムイベント及び保存スペースの状態が確認できます。詳しい内容は下記の“状態監視”部分を参照してください。



“状態”メニューの選択は、“システム検査”の権限を持ったユーザーでログインした時だけ、可能になります。

13 設定

リアルタイム監視メニューで  (設定) を選択すると設定メニューに入ります。

ステータス情報ウィンドウ

	遠隔プログラムでDVRに接続した場合、このアイコンが表示されます。
	双方向オーディオにつながっている場合、このアイコンが表示されます。
	映像拡大機能を使用する場合、このアイコンが表示されます。
	フリーズ機能を使用する場合、このアイコンが表示されます。
	自動切替機能を使用する場合、このアイコンが表示されます。
	HDD録画状態を表示します。上書の場合、このアイコンが表示されます。上書を使用しない場合、残っているHDDの容量が%で表示されます。

画面グループ編集機能

画面グループ編集モードは、監視画面(分割画面)や自分の望む配置でカメラ映像を見ることができるよう設定する機能です。

PIP、4画面でリアルタイム監視メニューで  (カメラメニュー) → “グループ編集” を押すと、画面グループ編集モードがスタートします。画面上に黄色い枠線が現れます。枠線はマウスを利用して、カメラ画面を選択でき、押したカメラ画面

が表示されます。もし、ボタンを押したカメラがその画面で表示していない画面ならば、選択された位置は、ボタンを押したカメラ映像が表示されます。このような方法によって各画面に望みのカメラ番号を配置することができます。画面グループ編集モードは、操作のない場合約15秒で終了します。

拡大機能

拡大機能は、リアルタイム監視モードでのみ作動します。システム構成－ディスプレイ設定で“拡大”を選択・設定すると、拡大モードでアイコンが表示されます。

映像を拡大することができます。マウスを右クリックし、方向を変更するにはドラッグし、マウスを左クリックしてホイールを使用して、より正確にズームイン/アウトします。



拡大機能の応比率はカメラモードによります。

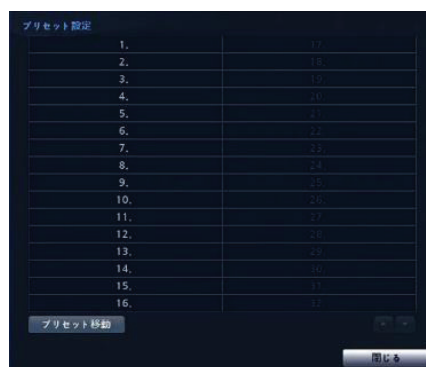
PTZ制御

監視モードでカメラを右クリックすると表示されるコンテキストメニューからPTZを押すと、PTZモードになります。

その場合、該当カメラのOSD画面にアイコンが点滅します。現在の監視画面上にPTZカメラがない場合には、それを知らせるメッセージ画面が表示されます。

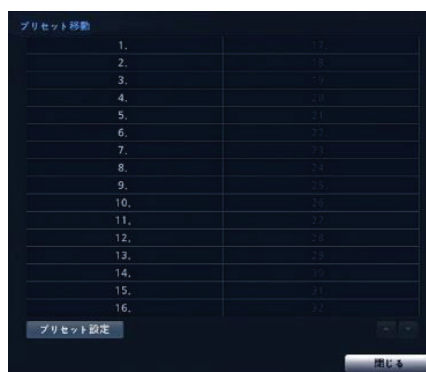


PTZカメラを操作するためには、“PTZ制御”の権限を持ったユーザーでログインしてください。



<プリセット設定>

PTZモードでボタンを押すと、“プリセット設定”設定画面が表示され、現在位置を望みのプリセット番号に保存することができます。



<プリセット移動>

PTZモードでボタンを押して“プリセット移動”設定画面が表示されたらプリセット番号を選択し、その番号に保存された位置にPTZカメラをすぐ移動させることができます。

PTZモードから調整したいカメラを選択した後、マウスポインタを画面の右側に位置させると、表示されるメニューからPTZ高機能メニューが表示されます。



速度、自動巡回などのPTZカメラが支援する機能を使用できます。



- マウスを用いて上/下/左/右の移動速度を制御することができます。PTZモードでマウスの左ボタンを押したままご希望の方向に移動してから回転速度を選択します。
- PTZカメラが支援しない機能は選択できません。

PTZモードでマウスを用いて簡単にPTZカメラを操作することができます。該当カメラのスクリーンでマウスの左ボタンを押したままカメラを任意の方向に移動させ、マウスのホイールを動かして映像の大きさを調整することができます。PTZモードでマウスのカーソルを画面の下に位置させれば下図のようなPTZ制御ボックスが表示されます。



PTZ制御ボックスの✕をクリックするとPTZ制御ボックスが消えます。アイコンの下をクリックしてからドラッグ&ドロップしてボックスの位置を変更できます。矢印アイコンをクリックしてPTZカメラを上/下/左/右など8方向に移動させることができます。各アイコンの機能は下記の通りです。

- 拡大/縮小
- 近距離/遠距離焦点調整
- ズームイン/アウト
- プリセット設定/移動
- PTZ高機能

イベントモニタリング機能

システム設定 - ディスプレー設定で“イベントモニタリング”が選択されていたら、イベントが発生した場合はイベントが連動録画されるカメラの画面だけ表示する状態に自動的に切り替わります。

イベントモニタリングはイベント録画時間の分割表示にされ、続いて新しいイベントが発生しなければ、イベントモニタリング画面に転換する前の画面に戻ります。

隠しカメラ機能

カメラ設定で特定カメラを“隠し1”に設定すると、ユーザーがログインしていないか、“隠しカメラビュー”権限のないユーザーでログインした場合、監視画面で該当カメラの映像は表示されなくなります。しかし、該当カメラのタイトルと現在の状態を示すアイコンは正常に表示されます。

カメラ設定で特定カメラを“隠し2”に設定すると、ユーザーがログインしていないか、“隠しカメラビュー”権限のないユーザーでログインした場合、該当カメラがoff設定のように表示されます。すなわち、カメラ映像はもちろん表示されず、カメラタイトルはグレーになり、各種の状態アイコンも表示されなくなります。

“隠しカメラビュー”権限を持ったユーザーがログインした場合には、カメラが“隠し1”か“隠し2”に設定されていても隠し機能が適用されず、映像だけでなく状態アイコンも表示されます。

状態監視

リアルタイム監視メニューまたは検索メニューで☑(状態)を選択するとシステムイベント及び保存スペースの状態が確認できます。



現在のいろいろなイベントの状態を調べることができます。イベントが発生したところは目立つように表示されます。イベントが発生してから5秒間点滅するので瞬間のイベントも簡単に把握できます。

アラーム入力の設定で、設定した通りにアラーム入力イベントが発生した場合、該当“アラーム入力”チャンネルが黄色で強調されます。そして“モーション”、“映像信号なし”項目は、それぞれイベント - モーション設定、映像信号なし設定で設定した通りにイベントが発生した場合、該当チャンネルや項目が黄色で強調されます。また、“アラーム入力エラー”、“録画エラー”項目は、システム - モニタリング設定によってイベント状態が表示されます。“緊急録画”項目は緊急録画を行っているイベント状態が表示さ

れます。“ディスクフル警告”項目と“ディスクフル”項目は“上書”モードに設定されていない場合、システム－モニタリング設定で指定したディスクの割り合いになった場合、或は100%フルになった場合に発生するイベントです。“保存デバイスなし”はDVRの最初起動時、録画用の保存装置に接続されていない場合発生するイベントです。“ディスク構成変更”はハードディスクの入れ替わりの後、システムを再起動する場合発生するイベントです。

“ファンエラー”はクーリングファンの回転数が一定のレベルに達しなかったり、約50秒以上作動しない場合発生するイベントです。

“イベント状態”設定画面で“HDD”タブを選択して現在のHDDの状態を調べることができます。



“ディスクエラー”項目には使用されたことのないディスクの場合は“初期化されていません”と、正常に使用されているディスクの場合は“良好”と表示されます。“良好”と表示されてもHDDの一部が使用できない場合、その比率が“%”と一緒に表示されます。この比率がユーザーの指定した比率より高い場合は“エラー”として表示され、システムイベントが発生します。

“温度”項目には、温度を読み取れないディスクの場合“N/A”と、温度を読み取って正常な場合は“良好”と表示され、温度と一緒に表示されます。この温度がユーザーの定めた温度以上の場合は“不良”と表示され、システムイベントが発生します。

“S.M.A.R.T.”項目には、S.M.A.R.T.機能をサポートしないディスクの場合は“N/A”と、S.M.A.R.T.状態に異常があって24時間以内にディスクが使用できなくなる可能性のある場合は“不良”と、正常な場合は“良好”と表示されます。“不良”の場合はシステムイベントが発生します。

映像録画

“第2章－設置”部分で説明した通り、DVRを設置すると録

画ができます。

いつ録画するかについての設定は、“第3章－システム設定－録画スケジュール設定”部分で説明されています。また、プリイベント機能を利用する場合は、“第3章－システム設定－プリイベント設定”部分を参照してください。録画モードの設定については、“第3章－システム設定－録画設定”部分に詳しく説明されています。ここでは幾つかの設定について簡略に説明します。

ハードディスクが一杯になった場合、中止するか上書きすることができます。初期設定は“上書”に設定されており、最も古い録画から上書きします。“上書”を解除するとディスクが一杯になった場合録画が中止されます。

緊急録画機能

リアルタイム監視メニューで (緊急録画)を選択すると、活性化した全てのカメラで緊急録画が行われます。その場合、画面の各カメラ画面には感嘆符の形のアイコンが表示されます。この緊急録画は、ユーザーが設定した録画スケジュールに関係なく実行されます。

緊急録画状態では、システム設定－録画設定で緊急録画のために設定されたipsと画質で録画がおこなわれます。

緊急録画状態でもう一度 (緊急録画)を選択すると、緊急録画モードは解除されます。システム設定－録画設定で“緊急録画期間”が設定されている場合、設定された時間の通り緊急録画後自動的に緊急録画モードが解除されます。



HDDが“上書”に設定されていない状態ながら、100%フルになってしまった場合は緊急録画が行われません。

オーディオ録音

システム設定－録画設定でDVRのオーディオ録音が設定されていれば、その設定の通りビデオが録画される時にオーディオも録音されます。



オーディオを録音する場合には、全ての関連法規と条例を確認してください。

保存映像の再生

保存映像を再生するためには、“検索”の権限を持ったユーザーでログインしてください。本DVRは全チャンネル再生をサポートします。

“全てのカメラ”を選択すると全チャンネルを再生します。全てのカメラ再生モードでも画面グループ編集設定が保たれ、監視画面と同じく設定することもできます。ただし、PIPモードはサポートしておりません。



“隠し”として設定されたカメラの場合、隠し機能が再生モードでも同様に適用されます。

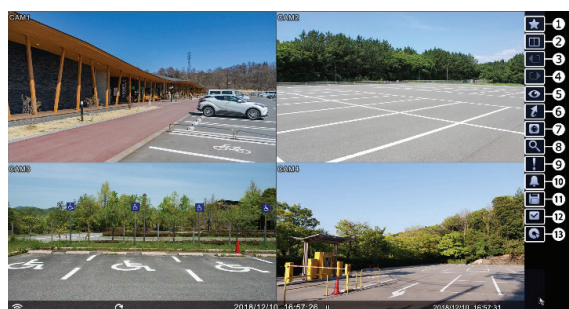
再生モードでマウスを使用するとより便利に操作できます。マウスポインタを再生画面に置くと、次のような録画テーブル検索画面(単純表示)が表示されます。



	前の映像に移動		高速再生
	再生/一時停止		高速逆再生
	次の映像に移動		

映像検索

検索メニューはマウスのポインタを画面の右側に置いて表示させることもできます。リアルタイム監視モードで検索モードアイコンを選択し、全チャンネルモードを選択して実行することができます。



①	ブックマーク	⑧	検索
②	ディスプレイ	⑨	緊急録画
③	前画面グループ	⑩	アラーム
④	次画面グループ	⑪	保存
⑤	監視	⑫	状態
⑥	移動	⑬	データベース
⑦	カメラメニュー		



検索メニューはマウスポインタを画面の右側に置いて表示させることもできます。

検索メニュー

① ブックマーク

検索メニューで (ブックマーク) を選択して現在再生時点をブックマークに追加します。詳しい内容は“ブックマーク”部分を参照してください。

② ディスプレー

・**全画面**: 検索メニューで (ディスプレイ) → (全画面) を選択してからご希望のカメラチャンネルを選択すると全画面パネルの該当カメラ番号ボタンを押す時やマウスで特定のカメラ画面をクリックする時と同じく、該当するカメラ画面が全画面に切り替わります。全画面のどこかをもう一度クリックすると、全画面になる直前の分割画面に切り替わります。

・**カメラのOSD、状態のOSD**: 検索メニューで (ディスプレイ) “カメラのOSD”を選択するとカメラ関連OSD(画面上に文字表示)機能を、“状態のOSD”を選択するとシステム状態関連OSD機能を活性化、または非活性化させます。

③ 前画面グループ、④ 次画面グループ

検索メニューで (前グループ)、 (次グループ) を選択すると、 (左右の矢印ボタン) を押す時と同じく現在の画面の前/次の画面グループに移動し、ページ番号が画面に表示されます。

⑤ 監視

検索メニューで (監視) を選択すると、検索モードから抜け出してリアルタイム監視モードに戻ります。

⑥ 移動

・**最初へ**: 検索メニューで (移動) “最初へ”を選択すると、録画された映像の最初の画面に移動します。

・**最後へ**: 検索メニューで (移動) “最後へ”を選択すると、録画された映像の最後の画面に移動します。

・**日時指定検索**: 検索メニューで (移動) “日時指定検索”を選択すると、日付と時間で録画映像を検索することができます。



移動する日付/時刻を設定した後、“決定”を選択すると該当録画映像に移動します。

⑦ カメラメニュー

・**拡大**: 検索メニューで (カメラメニュー) → “拡大”を選

択すると **D.ZOOM** ボタンを押す時と同様に映像を拡大できます。“拡大”をもう一度選択すると拡大モードが解除されます。

- ・**グループ編集**：検索メニューで  (カメラメニュー) → “グループ編集”でグループ編集モードが開始します。詳しい内容は“リアルタイム監視-画面グループ編集機能”部分を参照してください。



カメラメニューは各カメラの画面でマウス右クリックして呼び出すこともできます。

- ・**検索終了**：検索モードから抜けてリアルタイム監視モードに戻ります。

8 検索

- ・**イベントログ検索**：検索メニューで  (検索) → “イベントログ検索”を選択すると、イベントログを利用して録画映像を検索できます。詳しい内容は以下の“イベントログ検索”部分を参考してください。
- ・**録画テーブル検索**：検索メニューで  (検索) → “録画テーブル検索”を選択すると、録画テーブルを利用して録画映像を検索できます。詳しい内容は以下の“録画テーブル検索”部分を参考してください。

9 緊急録画

検索メニューで  (緊急録画)を選択すると緊急録画機能を使用/解除します。

10 アラーム

検索メニューでアラームが作動している間  (アラーム)を選択すると、内部ブザーを含むDVRの出力をリセットします。

11 保存

- ・**ソータッチクリップコピー**：検索メニューで  (バックアップ) → “ソータッチクリップコピー”を選択すると、ある二つのポイントを指定し、ポイント間のデータをコピーすることができます。詳しい内容は以下の“バックアップ”部分を参照してください。
- ・**バックアップ**：検索メニューで  (保存) → “バックアップ”を選択するとすぐ“クリップコピー”設定画面が表示され、“開始”と“終了”時刻をデータの最初と最後に決めるなどお好みで調節できます。詳しい内容は以下の“バックアップ”部分を参照してください。

12 状態

検索メニューで  (状態)を選択するとシステムイベント及び保存スペースの状態が確認できます。詳しい内容は

“リアルタイム監視－状態監視”部分を参照してください。



“状態”メニュー選択は“システム検査”の権限を持ったユーザーでログインした場合、可能です。

13 データベース

検索メニューで  (データベース)を選択すると、“録画” (メイン保存装置に録画されたデータ検索) または“外部” (他のシステムで使ったディスクを接続時、録画されているデータ検索)を選択することができます。

イベントログ検索

検索メニューで“イベントログ検索”を選択すると、下のようなイベントログ検索画面が表示されます。検索されたイベントログリストで、右下の矢印によってリスト上で上下に移動できます。

イベントログ検索

時刻	タイプ	タイトル
2023/03/21 17:15:20	★ モーション 1	CAM1
2023/03/21 17:15:10	★ モーション 1	CAM1
2023/03/21 17:14:59	★ モーション 1	CAM1
2023/03/21 17:14:17	★ モーション 1	CAM1
2023/03/21 17:14:12	★ モーション 1	CAM1
2023/03/21 16:55:42	★ モーション 1	CAM1
2023/03/21 16:55:35	★ モーション 1	CAM1
2023/03/21 16:55:30	■ 映像信号なし 1	CAM1
2023/03/21 16:55:29	★ モーション 1	CAM1
2023/03/21 16:55:24	■ 映像信号なし 1	CAM1
2023/03/21 16:55:21	★ モーション 1	CAM1
2023/03/21 16:55:10	★ モーション 1	CAM1
2023/03/21 16:48:49	★ モーション 1	CAM1
2023/03/21 16:42:16	★ モーション 1	CAM1
2023/03/21 16:42:08	★ モーション 1	CAM1

条件... 



イベントログ検索画面で特定イベントを選択すると、連動録画が行われたチャンネルの選択日時に該当する映像が画面に停止状態で表示されます。

登録されたユーザーでログインしていれば、イベントログ検索画面を表示するために特別に必要なユーザー権限はありません。もちろん、検索するためには“検索”権限を持ったユーザーでログインしてください。

イベントログ検索画面で左下の“条件...”を選択すると、“イベントログ検索条件”の設定画面が表示されます。



“開始”で“始め”を選択すると、保存されたデータのうち最初の時刻で設定され、“終了”で“終わり”を選択すると、保存されてデータのうち最後の時刻で設定されます。“始め”や“終わり”のチェック表示を外すと、検索する期間を直接変更できます。★を選択すると選択したブックマークの時点を開始または終了時間に設定できます。

“開始”または“終了”時間をユーザーが指定する場合には、“時間重複検査”を選択/解除できます。“時間重複検査”が選択されていないければ、システムの使用途中でシステム時間が変更され、ユーザーが指定した“開始”時間がニヶ所以上ある場合、そのどちらかを選択せよという画面が表示され、やはりユーザーが指定した“終了”時間がニヶ所以上ある場合、そのどちらかを選択せよという画面が表示されます。そして、ユーザーが選択した“開始”と“終了”時間帯に発生したイベントだけが検索され表示されます。そうでなく“時間重複検査”が選択されれば、全ての“開始”、“終了”時間帯に発生したイベントを検索します。

“アラーム入力”でアラーム入力イベントを検索するアラーム入力チャンネルを選択します。

“モーション”でモーション感知を検索するカメラチャンネルを選択します。

“映像信号なし”で映像信号なしのイベントを検索するカメラチャンネルを選択します。

“録画チャンネル”でイベントを検索する録画チャンネルを選択します。ここで設定された録画チャンネルのうち、一つでも連動録画が発生したイベントのみ検索します。どのカメラも選択しなければ、連動録画カメラが一つもないイベントのみ検索します。

“緊急録画”、“録画を確認”、“アラームインを確認”、“ディスクフル警告”、“ディスクエラー”、“ディスク温度”、“ディスク S.M.A.R.T.”、“ディスク構成変更”、“ファンエラー”などのシステムイベントを検索する際に含めるかどうかを設定できます。

録画テーブル検索

検索メニューより“録画テーブル検索”を選択すると下図のような録画テーブル検索画面を表示します。



録画テーブル検索画面は現在画面に表示するチャンネルの録画情報を表示します。検索画面の上段へ日付及び時間情報が表示され、録画テーブルの白色の縦線は現在再生位置を表示します。前面パネルの矢印ボタンを利用して現在再生位置を区間単位で移動することが可能であり、マウスを利用するとより簡単に再生位置を変更することができます。

ユーザーがシステム時間を過去に戻して録画を行い、同時帯に1つ以上の映像がある場合、重複した時間帯は黄色の分離線で分けられて録画テーブルに表示されます。



録画テーブルの後段へ表示するほどより最新データになります。

併合表示検索画面の左下の▲を選択すると現在の画面へ表示するチャンネルの録画情報が表示されるチャンネル別表示モードに変わり、▼を選択すると検索及び再生道具のみ表示される単純表示モードに変わります。単純表示検索画面で▲を押すか、チャンネル別表示画面で▼を押すと併合表示モードに変わります。

Q(拡大表示)を選択すると8時間(1920×1080解像度からは12時間)の録画情報が表示されて1分単位区間で構成されます。Q(縮小表示)を選択すると24時間の録画情報が表示されて3分単位区間で構成されます。画面へ表示する日付及び時間より以前あるいは以後の録画データが存在する場合、日付及び時間情報表示欄の両方ヘスクロールが表示されます。スクロールを前面パネルの矢印ボタンあるいはマウスでクリックしてからドラッグして当該録画データの情報を確認することができます。



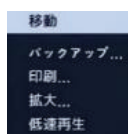
- ・ 区間別録画映像が複数のモードで録画されていたら“緊急(赤色)→プリイベント(黄色)→イベント(紫色)→タイムラプス(青色)”録画の順に表示します。
- ・ 低解像度のSDをズームすると、画像が表示されないことがあります。

を選択するとカレンダー検索画面が表示されます。



録画された映像がある日付が白色に表示され、その日付だけ選択できます。日付を選択すると選択された日付の最初に当たる時間に該当する映像が画面に停止状態で表示されます。イベントログ検索と同様に現在の画面に録画された映像がない場合には、16分割画面で録画された映像のある画面を簡単に探すことができます。

を選択すると検索メニューが表示され、必要な機能を実行することができます。



- ・**移動**：録画された映像の最初の画面または最後の画面に移動したり、日時で録画映像を検索したりできます。
- ・**バックアップ**：バックアップが行えます。
- ・**印刷**：現在の画面を印刷することができます。
- ・**拡大**：再生画面を拡大することができます。
- ・**低速再生**：再生画面を遅くできます。
(×1/2、×1/3、×1/4、×1/6、×1/8)

検索画面の下段にある各再生ボタンの機能は次の通りです。

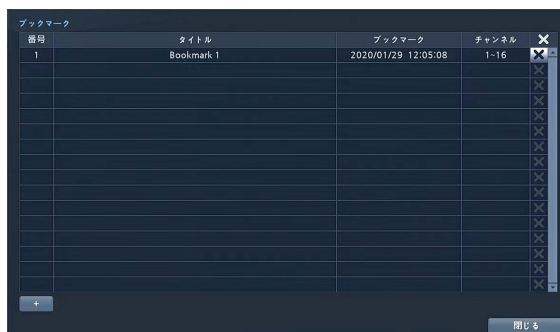
	前の映像に移動		高速再生
	再生/一時停止		高速逆再生
	次の映像に移動		

★選択するとブックマーク画面が表示されます。詳しい内容は“ブックマーク”部分を参照してください。

検索メニューの左上のを選択して録画テーブル検索メニューを閉じます。

ブックマーク

検索メニューで“ブックマーク”を選択すると、“ブックマーク”設定窓が表示されます。



“現在位置追加”を選択して現在再生時点をブックマークに追加します。ブックマーク設定メニューから特定のブックマークを選択すると登録された再生時点に移動することができます。



保存可能ブックマークの数は64個までです。

設定されたブックマーク項目の右側のの表示を選択してそのブックマークを削除することができます。

バックアップ

任意の二つの時点を設定してその間の録画データをバックアップすることができます。検索メニューで“保存 - ツータッチクリップコピー”を選択すると1番目の時点が設定されカメラ左下位置に📌アイコンが表示されます。

再び一度“保存 - ツータッチクリップコピー”を選択すると2番目の時点が設定されバックアップ設定窓が表示されます。指定した二つの時点の範囲が“開始”と“終了”時刻に自動に設定されます。

ワンタッチモードではいつも最新録画データを終了時刻に設定し保存ドライブの空容量によって開始時刻が自動的に計算されます。

検索メニューで“保存 - バックアップ”を選択すると“バックアップ”設定窓が表示され“開始”と“終了”時刻を設定できます。

★を選択すると選択したブックマークの時点を開始または終了時間に設定できます。

“チャンネル”でどのカメラの映像を保存するのかが選択してください。“パスワード”を登録すると、このファイルを再生する時、パスワードの入力が必要になります。パスワード使用するかどうかを選択しパスワードを設定してください。“メディア選択”で保存するメディアを選択してください。“ファイル名”を選択して保存するファイル名を設定してください。最高63字まで入力できます。



- ファイル名を設定する場合、\、/、:、*、?、<、>、|などの文字は使用できません。

“DVR名使用”を選択すると、バックアップファイル名にサイト名を追加します。



- バックアップファイル名にサイト名を追加する場合、サイト名に使用された \、/、:、*、?、<、>、|などの文字は“_”に代わります。

“開始”を選択すると指定した保存範囲のバックアップするデータ容量を計算して表示します。ただし、ワンタッチバックアップモードでは保存媒体の容量に合わせて保存範囲

が自動に設定されます。また選択した保存媒体に空き容量が足りない場合には空き容量に合わせてバックアップすることができます。時間範囲と容量を確認してから“継続”を選択するとバックアップが始まります。バックアップが開始されると、“キャンセル”を押してバックアップをキャンセルでき、“閉じる”を押して画面を隠すことができます。“閉じる”を選択してもバックアップは続けられ、作業が完了するとそれを確認する画面が表示されます。



- 2GBを超える場合には保存範囲を調節してファイルサイズを減らしてください。2GBを超える映像区間をバックアップする場合、システムが2GB単位に分けて保存します。

バックアップで作ったファイルをWindows®上で実行して、保存された動画を再生することができます。再生方法に関する詳しい内容は、JSS遠隔監視システムの取扱説明書をご覧ください。



- USB保存メディアの場合、外部でFAT32に初期化されたものを使用してください。USBハードディスクをFAT32に初期化して使用する場合は、“付録-USBハードディスクのインストール”部分に説明されています。



- USBバックアップの途中でUSBケーブルを抜いたり、USB装置の電源を切ったりしないでください。もし、バックアップの途中でケーブルが抜けたり装置の電源が切れたりした場合、DVRシステムが誤動作や外付USB装置のファイルシステムが損傷して、再度アーカイブを試みる場合にアーカイブができないというエラーメッセージが表示されることがあります。このエラーメッセージを取り除くには、DVRを終了させて再起動させなければなりません。もし、USBハードディスクのファイルシステムが損傷したならば、DVRを再起動してもアーカイブを試みる際にエラーメッセージが出続けるようになります。そのような場合はUSB-HDDをもう一度初期化するか、市販の復旧プログラムを利用して外付ドライブのファイルシステムの損傷した部分を復旧してください。

第5章—JSS遠隔監視システム

システム要件

	推奨仕様	最低仕様
OS	Microsoft® Windows® 11 Microsoft® Windows® 10 (64bit) (Home、Professional) Windows® Server2016 以上	
CPU	Intel® Core™ i7-12700K 3.6GHz以上	Intel® Core™ i3-2100以上
RAM	16GB以上	2GB以上
VGA	NVIDIA® GeForce® GTX1060、Quadro P2000 以上 (1920×1080または 2560×1440 60Hz)	NVIDIA® GeForce® GT710 (1280×1024、60Hz)または Intel® HD Graphic530以上
HDD	6GB以上の空き容量SSD	4GB以上の空き容量
LAN	Gigabit Ethernet以上	100Mbps Ethernet以上

インストール

ソフトウェアをインストールする前に、Microsoft® Windows® スタートメニューのコントロールパネルに移動し、電源オプションでモニター節電機能とハードディスク節電機能を使用しないに設定してください。

- 1 ソフトウェアのインストールCDを準備します。
- 2 CDのSetupのフォルダの下にあるsetup.exeファイルを実行します。

☒ Microsoft® Windows® でユーザーアカウント制御画面が表示されることがあります。この場合、許可ボタンをクリックした後、設定画面の指示に従ってプログラムをインストールします。
- 3 インストール画面が表示されたら、次ボタンをクリックします。
- 4 プログラムがインストールされる経路を指定した後、次ボタンをクリックします。
- 5 設置承認画面が表示されたら、次ボタンをクリックします。

☒ NETFrameworkとVisualC++Runtime Librariesが自動的にインストールされます。インストール時、時間が少々掛かる場合があります。
ユーザーのPCにNETFramework及びVisual C++RuntimeLibrariesが既にインストールされている場合、本インストールのプロセスは省略されます。
- 6 設置完了画面が表示されたら、閉じるボタンをクリックしてインストールを完了します。

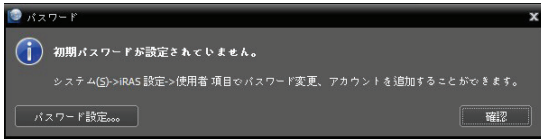
プログラム起動

JSS遠隔監視システムソフトウェアをインストールするとデスクトップにJSS遠隔監視システムのジャンプアイコンが生成されます。JSS遠隔監視システムのジャンプアイコンをダブルクリックしてJSS遠隔監視システムプログラムを実行します。

ログイン

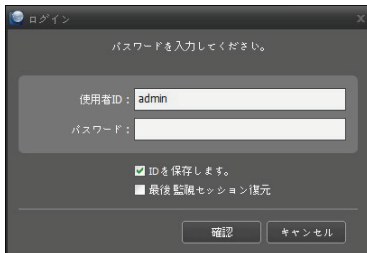
本プログラムは初期パスワードが設定されています

ん。パスワードを設定せずプログラムを使用するのはセキュリティ上好ましくないため、なるべくパスワードを指定して使用してください。



プログラム実行時、次のようにログインしなければなりません。

プログラムを実行した後、ログイン情報を入力します。



- ・ **IDを保存します**：この項目を選択するとログインする際、入力したIDを保存します。
- ・ **最後監視セッション復元**：現在の監視パネルに以前の監視セッションを復元することができます。

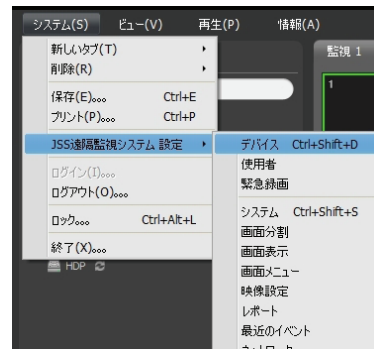


- ・ 使用者IDの初期値はadminであり、初期パスワードはありません。
- ・ ユーザーメニューでユーザーのIDやパスワードを変更することができます。

デバイスの登録

JSS遠隔監視システムで提供する機能を使用するためには、まずJSS遠隔監視システムにデバイスを登録した後、該当するデバイスをデバイスグループに追加しなければなりません。

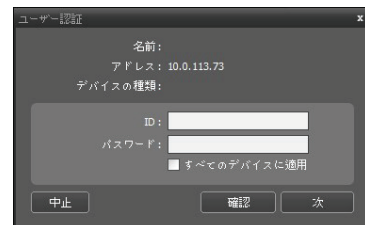
- 1 システムメニュー > JSS遠隔監視システム設定 > デバイスを選択します。



- 2 サイトパネルですべてのデバイスをクリックした後、右のサイトリストのパネルの下段にある **+** ボタンをクリックします。デバイス検索画面が表示されます。



- 3 検索モードを選択した後、検索開始ボタンをクリックすると、検索結果をリストで表示します。
- 4 デバイス検索画面の下段のデバイス登録ボタンをクリックします。
- 5 ユーザー認証ウィンドウが表示されたら、遠隔接続のために各デバイスで設定したID・パスワードを入力した後、確認ボタンを押してください。



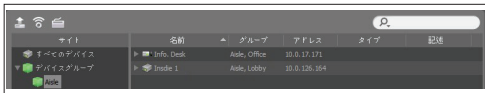
- 6 サイトパネルでデバイスグループをクリックした後、サイトパネルの下段にある **+** ボタンをクリックします。デバイスグループの追加画面が表示されます。



- ・ **名前**：デバイスグループの名前を入力します。
- ・ **場所**：該当するデバイスグループが所属する上位デバイスグループを選択します。

左側のデバイスリストからグループに追加するデバイスを選択すると、右側にある選択されたデバイスリスト欄に追加されます。確認ボタンを押すと、デバイスグループに登録されます。

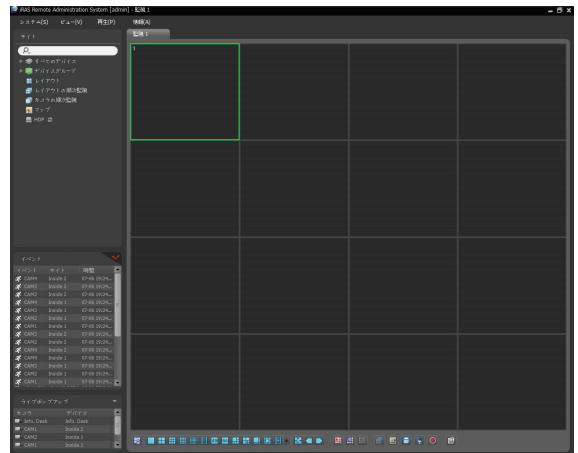
- 7 デバイスがデバイスグループに正しく追加されているか確認します。サイトパネルでデバイスグループをクリックした後、デバイスグループの左側の矢印ボタンをクリックします。登録されたデバイスグループをクリックすると、該当するデバイスグループに追加されたデバイスリストが右側に表示されます。



登録されたデバイスグループを選択した後、サイトパネルの下段にある ☒ ボタンをクリックするとデバイスグループ修正画面が表示され、該当するデバイスグループを修正することができます。

リアルタイム監視

- 1 サイトリストでデバイスグループにデバイスが追加されているか確認してください。
- 2 パネルタブで監視タブをクリックします。サイトリストで接続するサイトを選択した後、監視画面の上にマウスでドラッグ&ドロップします。選択したサイトのリアルタイム映像が画面に表示されます。



録画された映像の再生

- 1 サイトリストでデバイスグループにデバイスが追加されているか確認してください。
- 2 パネルタブで再生タブをクリックします。サイトリストで接続するサイトを選択した後、再生画面の上にマウスでドラッグ&ドロップします。選択したサイトの録画映像が画面に表示されます。

第6章-JSS遠隔監視-モバイル2

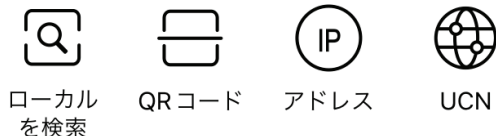


本サービスは多量のデータを使用するため、無線LAN(WiFi)を使用することをお勧めします。携帯会社のインターネットで接続する場合、課金されることがあります。

Androidのモバイルデバイス

- 1 モバイル機器よりAndroidPlayストア (Google Play)  アプリケーションを実行してください。
- 2 Playストア (GooglePlay) アプリケーションの検索欄にJSS遠隔監視-モバイル2と入力してください。
- 3 JSS遠隔監視-モバイル2をインストールしてプログラムを実行してください。
- 4 画面右下の  デバイス追加ボタンを押します。ローカルを検索、QRコード、アドレス、UCNのいずれかを選択し、デバイス情報を入力してください。

デバイスを追加



- ローカルを検索を選択して、デバイスを追加する場合は、本アプリ設定のローカルネットワーク設定を有効にしてください。
- QRコードを選択して、デバイス追加する場合は、本アプリのカメラ設定を有効にしてください。
- UCN以外でデバイスを追加する場合、アプリを起動している端末は、WiFi接続し追加したいデバイスと同一ネットワーク接続していることを確認してください。

iOSのモバイルデバイス

- 1 モバイル機器よりAppストア  アプリケーションを実行してください。
- 2 Appストアアプリケーションの検索欄にJSS遠隔監視-モバイル2と入力してください。
- 3 JSS遠隔監視-モバイル2をインストールしてプログラムを実行してください。
- 4 画面右下の  デバイス追加ボタンを押します。ローカルを検索、QRコード、アドレス、UCNのいずれかを選択し、デバイス情報を入力してください。

デバイスを追加



- ローカルを検索を選択して、デバイスを追加する場合は、本アプリ設定のローカルネットワーク設定を有効にしてください。
- QRコードを選択して、デバイス追加する場合は、本アプリのカメラ設定を有効にしてください。
- UCN以外でデバイスを追加する場合、アプリを起動している端末は、WiFi接続し追加したいデバイスと同一ネットワーク接続していることを確認してください。

第7章—付録

USBハードディスクのインストール

USBハードディスクをDVRに接続するためには、事前にWindows® PCを用いて初期化する必要があります。本章ではこの初期化の方法について説明します。



USBハードディスクの初期化は、Windows®のバージョンにより多少異なる場合があります。

- 1 USBケーブルを使用してUSBハードディスクをPCに接続します。
- 2 PCを起動させます。
- 3 USB装置のアイコンがタスクバーに表示されます。
- 4 もしUSBハードディスクのパーティションが既に作成され、データが保存されている場合、他のハードディスクと同様にマイコンピュータで内容を確認できます。「登録情報」→「一般」→「ファイルシステム」の順にアイコンにカーソルを当てて、マウスの右ボタンをクリックして確認します。もし、ファイルシステムがFAT32フォーマットでない場合、USBハードディスクをFAT32フォーマットにフォーマットし直します。
- 5 USBハードディスクのパーティションを作成するには「管理者ツール」→「コントロールパネル」→「コンピュータ管理」を実行します。「保存装置」の「ディスク管理者」を開けて、USBハードディスクの未割当領域にマウスカーソルを当て、マウスの右ボタンをクリックしてパーティションを作ります。
- 6 「パーティション作成ウィザード」で「Next」をクリックすると、「メインパーティション」画面の説明に従ってパーティションを作ります。ファイルシステムをFAT32に選択したかどうか確認します。



パーティションのサイズはマイクロソフトの制限があるため、32GBより小さく設定してください。

- 7 フォーマットを完了すると、USBハードディスクがマイコンピュータ内に追加されます。
- 8 DVRにUSBハードディスクを接続します。

システムログの種類

システム開始	緊急録画開始
システム終了	緊急録画終了
システム再開始	全てのデータ削除
アップグレード	ディスク削除
アップグレードエラー	ディスク初期化
電源エラー	ディスクフル
時間変更	ディスク構成変更
標準時間帯変更	ディスク '番号' : 'シリアルナンバ'
タイムサーバー成功	ディスク '番号' : 除去された
タイムサーバー失敗	自動削除
ディスクエラー	検索開始
ログイン	検索終了
ログアウト	バックアップ開始
設定開始	バックアップ終了
設定終了	バックアップキャンセル
遠隔設定変更	バックアップ失敗
遠隔設定エラー	バックアップユーザー
設定読込	バックアップスタート
設定読込失敗	バックアップ終了
設定保存	バックアップ映像再生時間
設定保存失敗	バックアップカメラ
設定保存取消	コールバック失敗
スケジュール作動	
スケジュール終了	

エラーコードの種類

アップグレードエラーコード			
番号	タイプ	番号	タイプ
0	原因不明のエラー	301	遠隔ネットワークエラー
1	ファイルバージョンに合いません	302	遠隔アップグレードの権限がありません
2	OSバージョンに合いません	303	遠隔アップグレードファイルの保存失敗
3	SWバージョンに合いません	304	ユーザーが遠隔アップグレードをキャンセル
4	カーネルバージョンに合いません	400	USB保存装置でマウント失敗
100	保存装置マウント失敗	401	USB保存装置でファイル読取り失敗
101	ファイルが見つかりません	402	USB保存装置でファイルコピー失敗
102	ファイル圧縮解凍失敗	403	USB保存装置でファイルコピー失敗
103	リロ(LILO)実行失敗	404	USB保存装置が接続していない
104	リブート失敗	405	USB保存装置使用中
300	遠隔接続失敗	500	バックアップ中であるためアップグレード失敗

バックアップエラーコード			
番号	タイプ	番号	タイプ
0	原因不明なエラー	11	保存失敗
1	デバイスエラー	12	ディスクエラー発生
2	デバイス接続失敗	13	JSS-playerの実行ファイルなし
3	CDメディアなし	14	JSS-playerの実行ファイルオープン失敗
4	間違ったメディア	15	JSS-playerの実行ファイル保存失敗
5	同じ名前のファイルがある	16	イメージ作成失敗
6	残容量不足	19	デバイス接続失敗
7	臨時ファイル作成失敗	20	デバイス使用中
8	ディスクオープン失敗	21	サポートされないファイルシステム
9	ディスクフォーマット失敗	22	データ検証失敗
10	データベースが変更される		

故障の際の確認事項

不具合	確認事項
本体の電源が入りません。	- 電源コードの接続を確認してください。 - コンセントの電源を確認してください。
リアルタイム映像が映りません。	- カメラビデオケーブルとの接続を確認してください。 - モニタビデオケーブルとの接続を確認してください。 - カメラの電源を確認してください。 - カメラレンズの取り付け状態を確認してください。 - メインモニタの現在の解像度を確認します。
DVRが録画中に止まりました。	- ハードディスクがフルになっている可能性があります。録画された映像を削除して録画エリアを確保してください。 - DVRを上書きモードに設定してください。詳しい内容は第3章 — 設定 — システム設定 — 一般を参照ください。
 アイコンが画面に表示されていますが録画がされません。	プリイベント設定になっているとイベントが発生しないため録画されていない場合は、黄色い  と  が表示されます。イベントが発生して録画される場合は、赤い  と  が表示されます。
システムアップグレードの途中でDVRが再起動を繰り返し、作業を完了しません。	アップグレードするファイルのバージョンを確認します。現在システムにインストールされているバージョンより下位バージョンにアップグレードする場合、デバイスにあるファクトリーリセットスイッチを押して工場初期化を先に行います。工場初期化を行う場合、ユーザーが保存した全てのDVR設定値は消えてしまいます。

製品の仕様

本製品の仕様は、製品改良のため、事前予告なしに変更されることがあります。

仕様

製品本体

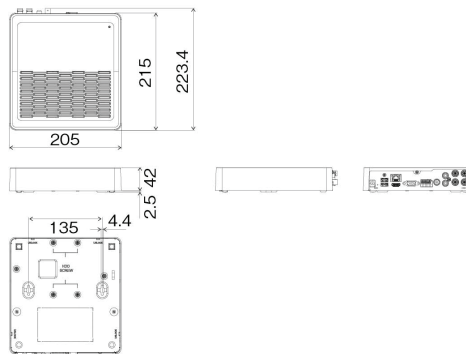
ビデオ	ビデオ入力	4ch (BNC) / アナログHD (AHD、TVI) 5M、4M、3M、2M、1M、CVBS (NTSC、PAL)
	ビデオ出力	HDMI : × 1、VGA : × 1、BNC : × 1 (SPOT)
	ディスプレイ解像度	HDMI、VGA : 1920 × 1080、1280 × 1024 BNC : 720 × 480 (NTSC)、720 × 576 (PAL)
	表示速度	最大 120ips
録画	録画解像度	2560 × 1944、2560 × 1440、1920 × 1536、1920 × 1080、1280 × 720、960 × 480、720 × 576、720 × 480、960 × 288、960 × 240、640 × 360、720 × 288、720 × 240、480 × 288、480 × 240、360 × 288、360 × 240
	フレームレート	120ips@1080P、72ips@3MP、60ips@4MP、40ips@5MP
	画像圧縮方式	H.265、H.264
	録画モード	タイムラプス、イベント、プリイベント、緊急
再生	性能	4ch 同期再生
	検索モード	タイムラプス、イベントログ
保存	HDD	内蔵 : 2TB
	バックアップ	USB HDD、USB メモリ
	RAID	—
ネットワーク	クライアント接続ポート	Fast Ethernet × 1
	伝送速度	30ips @ Full HD / ch (録画と同じ)
	イベントアラーム	Email (添付ファイル(.cbf、.mp4))、コールバック(JSS 遠隔監視システム)、プッシュ通知(JSS 遠隔監視 - モバイル 2)
インターフェース	オーディオ入力 / 出力	1RCA / 1RCA+1HDMI
	アラーム入力	4TTL、NC / NO programmable、3.0V (NC) or 0.3V (NO) threshold、DC5V
	アラーム出力	1 接点出力 (NO)、1A@AC125V、1A@DC30V
	アラームリセット入力	—
	シリアルインターフェース	USB 2.0 × 2
一般	外形寸法	約 205 (幅) × 42 (高) × 215 (奥) mm ※突起物を含まず
	質量	約 1,300g (HDD 1 個装着時)
	使用温度範囲	0 ~ 40℃ (湿度 0 ~ 90%)
	電源 / 消費電力	DC12V、0.75A / 最大 9W
	同梱物	本体 × 1、電源アダプタ × 1、マウス × 1、保証書 (3 年) × 1、簡単設定ガイド × 1

付属 電源アダプタ(DC12V)

定格	AC 入力	AC100V、50 / 60Hz、1.0A
	DC 出力	DC12V、3.0A

外形寸法図

単位 : mm



アフターサービスについて

この製品は「保証書」を別途添付しております。所定事項の記入および記載内容をご確認いただき、大切に保管してください。

■ 保証について

正常な使用状態で、保証期間内に万一故障が生じた場合には、保証書記載内容により、お買い上げの販売店（または工事店）が修理いたします。その他の詳細は保証書をご覧ください。

- 保証期間経過後の修理については、お買い上げの販売店にご相談ください。修理によって機能が維持できる場合は、お客様のご要望により有料修理いたします。
- 本製品が故障した場合、稼働していない時間に対する営業損失は補償対象外になります。

修理を依頼されるときは

下記事項をお買い上げ販売店にご連絡ください。

- ① 故障の状況（できるだけ詳しく）
- ② 品名と品番（アナログH D対応4chデジタルレコーダ【PF-RA504】）
- ③ お買い上げ年月日（保証書に記入）
- ④ 製造番号（保証書に記入）
- ⑤ お名前、おところ、電話番号

■ 定期点検・保守について

特に監視用などでご使用の場合は、定期点検の実施をおすすめします。詳しくは、お買い上げ販売店（または工事店）にご相談ください。

- 万一故障が発生した場合はお買い上げの販売店にお申し出ください。
本製品は当社保証規定に基づいて保証させていただいております。

JAPAN SECURITY SYSTEM
Safety and trust keep to the future

ご購入元メモ欄

株式会社 日本防犯システム

〒105-5111 東京都港区浜松町2-4-1
世界貿易センタービルディング南館 11階

www.js-sys.com/

本製品の仕様は製品の質を高めるために事前の予告なく変更される場合があります。